

395
96



始



395-96

三重縣名賀郡
郡立農學校長

谷本龜次郎著

合理的農家經營法

大正

10. 8. 24

内交

發兌元東京
隆文館



Faint, illegible text impressions on the reverse side of the page, possibly bleed-through from the other side of the paper.

(義主の者著)



入るれば農夫……〔職業生活と人生の意義〕

〔樂しき我家〕

〔愛でたき祖國〕

出づれば紳士……〔共存生活と社會の名望〕

◎明日もまた朝どく起きてつとめばや窓にうれしき有明の月

◎國民の力の限り盡すこそ我日の本のかためなりけり



(活生るあ斐甲生)

三書集多読後必大益久遠著



發行所 東京 文藝

農人生活

翠山圍む村古りて苔蒸す茅屋千古の平和を語り、松吹く風萬歳の樂を奏して霞の衣天女の舞ふに似たり。奇ならずや山莊の景、働木の生垣に貧乏神近寄らず、正直木の蔭に福の神腰を据へて笑ふ門を守り給ふ。宛然一小王國に似たり。快ならずや田園の居、家門榮えて一族長壽の因を傳へ長幼團樂歡聲堂に溢る。主人名聲あり出でては紳士入りては農夫、良妻之を授けて名實兼備し、子女教育ありて社會中堅の良材なる。翁媪は顧問、一族和平の天使たり。居常閑靜春花秋月千金の眺を恣にすれば鳴禽來り訪ひ蘭香薰り見舞ふ。又糧食倉廩に満ちて財囊温まるは之れ全く自然の成物、神より受くる俸祿也。知らずや家禽餌なくして育ち毎日銀卵を産み、兎は軒に鯉は田窪に、丸々肥えて食膳に上るの光榮を待つ。牛、山羊、豚は厩舎に跳り、金肥なくして土地の豊饒を培ふ。鮮菜は畑に又野山にもあり、軒端の空地に梅あり桃あり葡萄あり、栗、柿、密柑もありて家人の採るに任せ施すに盡くす。出づるに輕車なきも手造りの履物に千里の道を誤らず、衣るに裘なきも手縫の粗袴は綻びを知らず。國家社會の奉仕に缺くることなれば疲しきことなく氣兼なし。體腴に心長閑なれば食甘く眠深し。人は神の寵兒さかや、子として親に近き神的趣味の生活に浸る何の幸福か之に如かん。茲に始めて生きるの望み其樂さを悟り得たり、天に九拜し地に三禮して生の光榮を感謝す。(大正一〇、一、一、谷本米洲)

自序

由來我國は農業の進歩發達鈍く農家の之に依て殖産の實を擧げ花々敷成功をなすもの比較的少く普通一般に順調なりと稱するものにして十年一日の如く平々凡々唯辛じて其活計を足らし借金せずんば幸也の状態にある所以のものは何ぞや。惟ふにこれ農業其もの、不可なるにあらず土地、資本、勞力等農業要素の缺乏に由るにもあらず、唯々農業者其人の自覺なき從事と盲目的經營の結果に歸せずんばあらず、苟も人の職業に處して自覺なき作業の結果は只の稼ぎ人即ち苦力、生きたる器械たるに過ぎずして希望もなければ方針もなく其業務に對する一切の趣味と其勞作に對する總ての快感とを享受すること能はず爲に研究心を發揮して之を根本的に改良發達せしめ、之に依て一代の運命を開拓し斯界の寵者として天晴れ成功を期せんとするの勇氣も亦起らざるなり、假令生産物の増加、一家資産の増成を希ふの慾望、人一倍に之ありと雖、其爲す處斯の如くにして所謂盲目的經營たらんには如何に素直に戴星踏月の努力を輸すと雖、其報酬や菲薄に偶々環境の刺戟によりて生産方面の増收を來すことありとも、未だ之を以て營業最終の目的を果たすに値せずして却て其増收をさへ呪ふものあるに至れり

かくては國家社會に對する大なる貢獻も個人生活の向上發展もなさずして徒らに年老い妻子眷族をして艱難不遇の境涯に殉せしむるに至る。尙甚しきに至りては祖先の資を竭盡して耕すに土地なく住むに家なき苦境を作り遂に紅塵萬丈の都門に馳せて可惜數百年代打ち續きたる名門の家名も舊家の血統も涸らし盡するに至る仕末なり哀れ果敢なき運命にあらずや、皆これ己が招ける不覺にして心なき農業者の踏み易き轍なりと謂ふべし、此故に苟も農業に従事して成功せんとするものは先づ第一に自己の天分及び地位を自覺し、以て其職務に對する興味を喚起し進んで之が研究をなし生産の増加を計ると共に農家經營の良法を講じ以て合理的施設をなすにありて存す。

(一) 自覺すること

職業は人類の天分にして勞働は職業の實質也、人は勞働によりて職責を完ふし此に始めて人類たるの本分を盡し得るものなり。而して其職業には貴賤上下の別あること更になし、宜しく自己の能力と經濟的地の利に鑑みて之を選択すべし、農村に於ける農業該生産要素を有せる農家に農を以て代々の家業となすこと實に其能力と地の利を得たるものと謂ふべし、然るに由來我國農家の自覺せざる結果自重心に乏しくして自己の職業を卑しむこと甚しく農は人類中最も不甲斐なきもの、従事すべき業務の

如くに誤解し、機會だにあらば他に轉業せんと焦心しつゝ、あるもの多し、馬鹿けたる極にあらずや、識者をして「自らを卑く蔑むあさましき慣ひをいつか我作りけむ」と嘆かしむるに至れり。農業果して賤しむべきか否々職業に貴賤なきは無論、特に農工商の三實業は鼎立して國家の盛衰消長に係はり何れに愚かはなかるべし、余を以て謂はしむれば農は三業中の基礎生産をなすものなれば其關係する處重且大にして最も尊重すべきものとなさざるべからず。何となれば之を個人經濟より見、之を國家の上より觀、又社會一般の上より見て最も大なる尊重に値するものあり。夫れ農は其人に向つて有形の利益たる富と無形の幸福たる健康とを與へ、國家に對しては經濟の財源を培びて大日本帝國の大黒柱となり、商工業の以て榮ゆる基礎を作り、之に従事する農民は最適最良なる國家の干城となりて其精銳を極む、農業の生産物は衣食住の原料として國民乃至社會人類の生命を保護し、其純朴なる氣風及德行は以て國民武上道の相續者として尊重せらる、處農業何ぞ賤しむに足らむや、農業何ぞ不甲斐なき輩の従事すべき業務ならむや、農業何ぞ國家社會の爲に盡すの道にあらざらむや、農業何ぞ個人生活の向上發展を成し得ずとなさんや、生活上の餘裕、人格の向上、社會の信用、地位の向上發展は自ら大に之に伴ふものあり農業を賤しむの理由何れにか存する。然し斯の如きは獨り自覺ある農業者

の獲得すべき利権にして無爲の輩の克くすべき處におらず謂ゆる「爲せば成る爲さねば成らぬ何事も成らぬといふは爲さぬなりけり」なり、嗚呼現在の農家の如き貧弱なる生活をなせる所以のものは唯夫れ自覺なきの致す處のみ、其自覺なき結果却て天賦の利得も自然の幸福も其享受を避けつゝ、ありと云ふも過言にあらざる。『天は自ら助くるものを助く』宜しく農業に従事して成功せんとするものは茲に自覺の努力を輸し修養以て人格を高め宜しく「我は農民なり」といふ態度を以て勵精事に當るべし萬の幸福は期せずして其中に臻らむ。

(二) 趣味を興起すること。

農民にして自己の地位を自覺し自己の職業を尊重して誠心誠意以て之に努力するに至らば此に職業に對する趣味を喚起せずして止まざるべし、自己の職業を愛するものは成功の第一期なり娛樂を自己の職業中に求め之と相同化する底の趣味を喚起するに至らば則ちこれ成功の第二期なり斯くして倦むことなくんば遂には成功の彼岸に到達するものと謂ふべし。夫れ農業は自ら趣味多き職業なり。繁瑣なる社會の刺戟に遠ざかり自然を友として心靜かに體力、氣力を平等に使用し、四時生産物の美は以て人生の高尙なる情操を満足せしむるに足る。『酒止めて田を買はんとも思ふかな秋の垂穂の色づく見れ

ば』誰もこの心すなるべし尙進んでは農業を有興味に經營すべし、田圃の作付設計可なり、宅地の利用亦可なり以て環境の美感と快感を求め此に培養し之に飼養する各種の生産物は以て農家日常の食物を改善するに足り、大に奮闘の實力精力を養ふに足るべし、獨り經營者の慾望を満足せしむるに止まらずして家族全體の作業分擔によりて其境遇を愉快ならしめ、進んで高尙なる趣味の澎湃を期するに足るべし、斯く一家舉つて其家業に興味を喚起し之に丹精するに至らば成功は求めずして臻ること明かなり。又進んでは勞力其物に興味を感じべし職業は人類の天分にして勞働は職業の實質たる以上、人生は勞働の資によりて生くるものにして勞働なければ人生一日も生存すること能はざるべし、勞働の神聖なる理由此にあり、されば農業者たるもの宜しく勞働其物に對する愉快を感じるの域に到達せざるべからず如何なる國土如何なる時代に於ても絶対に幸福は汗の賜なることを知るべし。然るに由來我國民は一般に勞働を賤しむの弊風あり國民として又人類として誠に恥すべき俗習ならずや、殊に況や農業にして其勞働を厭ふに於ておや、斯くの如くにして尙且つ其成功を期待するものあらば、それこそ木によりて魚を求むるの類に等しかるべし、農業者宜しく思を此に致し農業其物に興味を興起すと共に進んで一層趣味ある經營を實行し勞働と趣味とを融和せしむるの域に到達せんことを努むべ

(三) 學理を研究すること。

我國農家は由來盲目的經驗に他頼り學理の應用を疎んずるの傾向あり。これ封建時代に於て知識慾を去勢せられ「考ふべからず働くべし、知らしむべからず依らしむべし」とせられたる階級的生活の餘弊にして今尚ほ之を悟らず土を掘るは金を掘るなりといふ單純なる働き一片の考によりて左右せらるるもの多し、斯の如くにして自覺なく趣味なく其日暮しに貴重なる勞力を生きたる機械の如くに使用しつゝ、常に不愉快に且苦痛を啣ちつゝ、晏如として從事せる處の生業なれば之に深遠なる學理の應用、研究實驗等とは思ひも寄らざる次第なり。これ戴星踏月の努力を輸す割合に獲る處少くして常に薄利を嘆ずる所以のものなり。農業の利益は一に合理的農法の實行によりて生ずるものなり、合理的農法とは學理を實地に應用したるものにして所謂天地自然の大なる化育に加ふるに人爲の最善を盡すの道なり、時代の推移は吾人の金科玉條となしたりし「多く儲けんとするものは多く働け」の語をして既に益なきに至らしめたり更に改めて「多く儲けんとするものは多く學べ」の時代となれることを記憶せよ即ち腕力を用ふるに先立ちて先づ心力の活動を以てするものなることを忘るべからず、これ實に農業

に於てのみ然るにあらざることは言を待たず、苟も人の職業に處して多大の利益を獲得せんとする先づ是に關係ある學問即ち學理を研究して之が根本の理法を明かにし之が運用の方法を講じ經驗に訴へ以て之を實地に應用して少費多獲の實を擧ぐることに努めざるべからず、而して又此には大なる勤勉と非常なる忍耐とを要するものなることを併せ知らざるべからず、事業の成敗與りて此に存す、顧ふて此に至る農業何ぞ薄利の職業ならむや、農業の薄利を嘆ずるものは知識技能なきものなり、農業に於て成功せんと欲するものは深く此に察する處なかるべからず。

(四) 經營を巧にすること。

學理の研究によりて合理的農法を實行し生産の増加を致すことありとも未だ以て満足すべきにあらず只管生産的方面に於ける單純なる學理の應用は、却て經濟の原理と一致せずして營業上不利を來たすことなきにあらず注意すべきことなり、故に之が研究をなし合理的農業を經營せんとするものは宜しく學理の生産的方面と經濟的方面の二つを鳥の兩翼の如くに心得其配合を考慮しては多生の産を擧ぐると共に最善の經濟に合せしむる様努めざるべらず、故に生産の増收のみを計るは營業上の一半面にして假令此に向つて効を奏したりとも之を以て満足すべきにあらざるに今日我國の農業は一般に

經濟的思想乏しきが故に農業の成功は唯單に生産の増收にあるもの、如く思惟し勵精に正直に之に汲汲たるものもあるも其大なる努力は他方に於て勘定法の正確ならざる爲に所謂稼の下の方持に終ること甚だ少しとせず、これ吾人の甚だ遺憾とする處なり。

今日の農家にして自家の財産原簿、資産一覽表を作製せるものそれ幾人ありや、營業上に於ける損益勘定を明かにし、一家資産の増減を一目瞭然たらしめ或は作物、家畜副業等につき夫々收支計算を試み以て其成績に顧みて將來の計劃をなすものそれ幾人ありや、米一俵の原價、繭一貫目の原價を調査して何區の生産米は一俵の原價何圓に當り何區の生産米は何圓なり、故に將來何區の栽培法は改良せざるべからず。又我家本年度の産米一俵平均の原價は何圓なるを以て定價何圓に販賣せざるべからずと根柢ある計算をなすものそれ幾人ありや、農家の經濟思想の甚だ雜駁なる此一例によりても明かに證し得べし、此故に今日の農家は只經營者家族の勞力を以て祖先の賚田を耕し、一家數口を糊すれば足れり借金せずんば幸なりといふ經營振なるを以て其資産たるや順調なりと稱するものにして猶十年一日の如く依然たり。人格の向上、家格の上進、子弟の教育、生活の向上發展等に向つて遺憾ながら之を満足せしむるの餘裕を有せざるなり。誠に生き甲斐なく働き甲斐なき限りならずや、農業者たる

もの宜しく思を此に輸し經濟の理法を明かにして理想的の計劃をなし勤勉努力以て合理的實行を施し最多の純益を收むることに努めざるべからず、其方法としては先づ第一に科學の應用に勉め經營を合理的にすること、及び共同一致の賜によりて利益を計ること即ち信用組合、購買組合、販賣組合、生産組合等による利益の享受と第二に農業家今少しく自給自足の方法を講ずることなり、今日農家の經營が餘りに分業に過ぎて其結果瑣末の利益を蒐收することを忘却せり、吾輩愚なりと雖、今日經濟行爲の復古を唱へ以て世人の嘲笑を敢てするものにあらず、されども如何せん、今日農家の風潮は滔々として極端なる分業に傾き甚だ好ましからざる現象を示しつゝあり、如何に世は文明となり分業萬能の時代なりと雖も、農業は其性質上、米作農は米作のみ、養蠶農は養蠶のみ園藝農は園藝のみとなすに至つては甚だ不得策なりと謂はざるべからず。土地の状態によるならんも普通農家にありては出來得る限り其仕事の範圍を擴めて年中勞力の平均を計るゝ共に収入の方面を多端ならしむる様種々の設計をなし小利を聚めて大となすの方法を講ずると共に併せて自家の食料品其他の日常品は成るべく自給自足することに努め支出の方面を狹窄することに努めざるべからず。農家經營の秘訣は賣りて利せんとする積極的収益のみに没頭せずして又一方買はんが爲に出金せずといふ消極的の收入を輕んずべか

らず、假令農業の利益は安全なる代りに菲薄なりといふも此二方面の消息を知る時は農業の利得決して尠少にあらざることの領解すべし、要は唯一家經濟の基礎を鞏固にせんが爲には一方農耕の道に通曉して農業經營を巧にすると共に他方には家政をよく整理して家事經營の妙を發揮するにありて存す偶々世に老農と呼ばれ生産の道に巧なる人にして必ずしも永年に餘裕を生ぜず之に反して農耕の術に左程巧ならざるも家財を増加するものあるを見るは此消息を察するに足るべし。

以上之を要するに事業經營の要訣は理想の計劃を立て、之を合理的に實行し勤勉努力、忍耐以て効を遠大に期するにありて存す。然らずんば決して其目的を貫徹すること能はざるべし。本書記述する處甚だ杜撰なりと雖も假例を以て中産農家の經營方式を示したり、農家幸に之に準じ、この形式によりて工夫考案し以て一家の經營を合理的に實行せらるゝならば庶幾くば所期の目的を達成せらるゝを得んか、以て序となす。

大正八年十一月中旬

名張寓居に於て

著者識

農家五訓

横井時敬

- 一、一家を富ますは國家の爲と心得奢侈を戒め勤儉の心掛肝要のこと。
- 二、一家の富は事業の改善に基くこと多きものなれば學理を應用する心掛肝要のこと。
- 三、一家の幸福は社會の賜なれば公共の爲に應分の務を盡し公德を修むる心掛肝要のこと。
- 四、共同戮力は最大切のことなれば小異を捨て大同に合し個人と共に公共の利益を進むるに心掛肝要のこと。
- 五、農民たるものは國家の模範的階級者たるべきものと心得武士道の相續者を以て自ら任じ自重の心掛肝要のこと。

合理的農家經營法

目次

第一編 緒論	一
第一章 農家經營の意義	一
第二章 農家經營の目的	二
第二編 農家經營法	五
第一章 農家經營の方式	五
(甲) 營業部	五
第一節 農家經營要素調	五
第二節 農家經營の基礎調査	八
(一) 農場の自然的狀況	
(二) 農場の經濟的狀況	
(三) 土地に關する調査	
(四) 資本に關する調査	
(イ) 土地改良資本	
(ロ) 建物資本	
(ハ) 農具資本	
(ニ) 家畜資本	
(ホ) 樹木資本	

(一)流通資本 (五)勞力に関する調査

第三節 經營要素の確立……………二八

(一)自給資力の總額 (二)自給資力に對する報酬推定額

第四節 事業計劃……………三〇

(一)作付計劃 (二)養蠶計劃 (三)養畜計劃 (四)林業計劃 (五)餘業計劃

第五節 經營費豫算……………三六

(一)支出の部 (二)收入の部

第六節 營業部所得總額……………四七

第七節 所得處分法……………四八

(乙) 家計部……………四九

第一節 家計財産調……………四九

(一)土地及建物調査 (二)家具類の調査 (三)債權及び債務調 (四)現品及び現金調

第二節 家計費豫算……………五五

(一)收入の部 (二)支出の部

第二章 生産物處分一覽表……………六一

第一章 年度末資産増減表……………六六

第三編 農家經營の實務……………六九

第一章 營業年度の決定……………六九

第二章 年中行事の設定……………六九

第三章 事業設計調書の作製……………一〇六

第一節 稻作設計表……………一〇六

第二節 冬作設計表……………一〇七

第三節 蔬菜園設計表……………一〇八

第四節 果樹園設計表……………一〇九

第五節 桑園設計表……………一一一

第六節 苗圃設計表……………一一一

第七節 養蠶設計表……………一一二

第八節 養畜設計表……………一一二

第九節 林業設計表……………一一三

第十節 餘業設計表……………一一四

第四章 諸帳簿の整理……………一一五

(甲) 營業部……………一一八

第一節 主要帳簿の種類……………一一八

第二節 金銭出納簿……………一一九

第三節 物品出納簿……………一二〇

(一)生産物の部 (二)生産原料の部

第四節 財産臺帳……………一二四

(一)土地臺帳 (二)建物臺帳 (三)農具臺帳 (四)家畜臺帳 (五)樹木臺帳

第五節 年度末事業決算表……………一三四

第六節 補助簿の種類……………一三六

第七節 農業日誌……………一三七

第八節 營業各部收支決算表……………一三九

(一)稻作收支決算表 (二)養畜收支決算表 (三)養蠶收支決算表 (四)豫算及決算損益勘定表

第九節 覺帳……………一四八

第十節 農場沿革史……………一四九

(一)農場一覽圖 (二)農舍平面圖 (三)所有土地原簿

(乙) 家計部……………一五六

第一節 主要帳簿の種類……………一五六

第二節 金銭出納簿……………一五七

第三節 物品受拂簿……………一五九

第四節 支拂内譯帳……………一六〇

第五節 年度末決算表……………一七〇

第六節 補助帳簿の種類……………一七二

第七節 家具臺帳……………一七二

第八節 財産目録……………一七六

第五章 農務の監督……………一七八

第六章 物品の購入法……………一八一

第七章 生産物販賣法……………一八二

第八章 資金調達法……………一八五

第九章 財産の監査法……………一八五

第四編 農家經營上の注意……………一八六

第一章 生産増加法……………一九一

第二章 支出減少法……………一九二

第三章 物價の原理……………一九二

第一節 物價の高低を生ずる原因……………二一八

(一)需要供給と物價 (二)常價即ち平準價 (三)需要に限りあるもの、物價 (四)需要供給に限りなきもの、物價

第二節 生産物原價算出法……………二一八

第四章 農業所得の分配……………二二一

第一節 農業所得計算法……………二二三

(一)土地資本の利廻りを算出する方法 (二)企業益を算出する方法

第二節 農業所得増進の方法……………二三〇

第三節 所得運用法……………二三一

第四節 所得の處分法……………二三一

第五章 農家生計法……………二二三

第五編 農業經營の資料……………二三七

第一章 土地に関する事項……………二三七

第一節 土地の價格……………二三七

第二節 全國平均土地の所得調……………二三九

第三節 土地の經濟的位置……………二四二

第四節 簡易土地測量法……………二四三

第二章 肥料に關する事項……………二四八

第一節 肥料配合上の注意……………二四八

 (一) 配合と肥料要素の效果 (二) 配合と反應の良否……………二四八

第二節 配合施肥量計算法……………二五二

 (一) 三要素の割合を適當にする計算法 (二) 配合施肥上三成分算出法 (三) 施肥量換算表……………二五八

第三節 肥料購入上の計算法……………二五八

 (一) 肥料市價の廉否判定法 (二) 肥料三要素の比價を定むる法 (三) 肥料の眞價を算定する法……………二五八

第四節 肥料購入上の注意……………二六二

第五節 購入肥料の鑑定……………二六四

(一) 不正肥料の混合物を見出す鑑定法 (二) 保證成分量の信じ難き理由……………二六六

第六節 所謂完全肥料の不利益……………二六六

第三章 作物に關する事項……………二六八

第一節 土質に適する作物の分類……………二六八

第二節 氣候に適する作物の分類……………二七〇

第三節 耐酸性による作物の分類……………二七三

第四節 驅蟲殺菌劑の製法……………二七四

 (一) 驅蟲劑の製法及使用方法 (二) 殺菌劑の製法及使用方法……………二七四

第五節 蔬菜及果物貯藏法……………二八四

(一) 根菜薯類の貯藏法 (二) 果實貯藏法……………二八四

第四章 林業に關する事項……………二八七

第一節 測樹法……………二八七

(一) 斷面積の計算法 (二) 材積計算法 (三) 堆積材の實積計算法 (四) 立木測定法 (五) 一林の測定法 (六) 樹齡査定法 (七) 生長量査定法……………二八七

第五章 蠶業に関する事項……………二九六

 第一節 蠶室蠶具と蟻量との關係……………二九六

 第二節 蠶室蠶具の消毒計算法……………二九八

 第三節 繭價算定法……………三〇二

 (一)繭價算定公式 (二)掛相場算定法

第六章 家畜に関する事項……………三〇七

 第一節 消化率……………三〇七

 第二節 營養率……………三〇七

 第三節 飼料市價の廉否判定法……………三〇八

 第四節 肥育牛の飼料……………三二〇

 第五節 飼料配合上の注意……………三二三

 第六節 埋草製造法……………三二六

 (一)埋草窖 (二)埋草窖の大きさと生産量 (三)埋草製造法 (四)埋草の良否鑑別 (五)埋

草給與法

第七節 厩肥産額計算法……………三三二

第七章 餘業に関する事項……………三三三

 第一節 農産製造法……………三三三

 (一)植産物加工製造 (二)畜産物加工製造 (三)繭詰法 (四)蠟詰法

 第二節 薬細工……………三四八

第八章 家政に関する事項……………三五〇

 第一節 農家食物調理法……………三五〇

 第二節 豚肉日本料理法……………三六八

 第三節 食用植物の利用効能……………三七四

 第四節 食物經濟……………四〇三

 (一)食量標準 (二)食量計算法 (三)食物の廉否計算法

第五節 民間採藥療法……………四一一

- (一) 齒痛及口腔諸病
- (二) 胃病吐血、止瀉、吐劑
- (三) 便秘下痢、其他腹部の諸病
- (四) 頭痛、眩暈、神經衰弱、不眠症其他腦の諸病
- (五) 耳鼻咽喉の諸病及聲啞
- (六) 眼疾
- (七) 肺病
- (八) 心臟病
- (九) 黃疸、肝臟病
- (一〇) 痔疾
- (一一) 生殖器病
- (一二) 腎臟及泌尿器諸病
- (一三) 婦人病
- (一四) 小兒諸病
- (一五) 癩麻質斯、神經痛脚氣中風、癲癩疝氣
- (一六) 熱病、感冒盜汗
- (一七) 梅毒癩病皮膚病
- (一八) 瘰癧癰腫、其他の腫物
- (一九) 打撲傷、湯火傷、毒蟲刺傷
- (二〇) 補血、強壯劑
- (二一) 其他の諸病

合理的農家經營法目次 終

合理的農家經營法

谷本龜次郎著

第一編 緒論

第一章 農家經營の意義

經營とは「ハカリ、イトナム」の義にして如何にせば一定の材料を用ひて持續的に且永久的に最も多くの利益を擧げ得べきかを攻究し、十分の計劃を立て、之を實行するの意義なり。

惟ふに現今の農家は昔日の如き孤立的自給的狀態を脱却して貨幣經濟即ち交換經濟の上に立てる一の複雑なる營業と成れるものなれば農業者たるもの宜しく一般經濟界と相關聯して機敏なる理財的觀念によりて之を經營し之が管理をして合理的ならしむるにあらざれば到底豫期の効果を齎らすこと能はざるに至れり。故に本書は既に研究せられたる農學並に農業技術各方面の改良方法中最良のもの

、みを選択し、之を或特定の自然的狀況と經濟的地位にある農場の状態に鑑み、之を比較し之を適當に結合して以て直接に、確實に、最多の利益を擧ぐるの方法を範示せんとするものなり、名づけて之を農家經營法と稱す。

農業者の資格

- 一、農業者は身體強健にして風雨寒暑を厭はざる人たるを要す。
- 二、農業者は農業に興味を有して田舎を愛好する人たるを要す。
- 三、農業者は質素儉約にして勤勞を厭はざる人たるを要す。
- 四、農業者は堅忍持久の念に富みて秩序を重んずる人たるを要す。
- 五、農業者は農業經營の材幹技能を有する人たるを要す。

第二章 農家經營の目的

「抑も『家』の興隆は人生向上の標識たると共に又實に國家發展の根柢をなすものなり、而已ならず君民一家忠孝一本は我國體の特色にして吾等の『家』は金匱無缺の皇國を模寫せる小國家に外ならず、故に吾人は仰いで祖先の志を釋ね俯して兒孫の將來を思ひ乃ち家風の振興と家産の造成とを一に併せ

て之を遂ぐるの企劃を立て之を内にしては『家』に天國の慶福を聚め之を外にしては國の爲に磐石不動の礎を固むべく修省琢勵し拮据勉勵し以て此大目的を貫徹せんと欲するものなり」とは法學士山下信義氏の家産財團百年計劃期成同盟會趣意書の一節なり。實に金玉の言、吾人の言はんと欲する處を盡して餘蘊なし眞に吾人精神の焦點此にあり假り來りて以て吾人の信念を披瀝し、一家經營の根本義を遺憾なく闡明したり、只異なる處は彼や百年の計劃にして此や年次の經營を合理的にするにあるのみ歸する處一元なり、生活の向上と家産の増成とを併せて家風の振興を期し、農業者として將又忠良なる帝國臣民として生甲斐ある生活を遂げんとするの趣旨に外ならず。之を要するに吾人の農家經營の目的に對する信條は

- 一、物質的並に精神的に現生活の充實向上を期すること。
 - 二、家産を増殖して上祖先の遺志に應へ下子孫百年の計をなすこと。
 - 三、家族の人格を高め家風を作興し以て家格の向上を期すること。
 - 四、忠君愛國、奉公の義務を完ふし社交上の徳義を満足せしむること、
- にして一言にして盡せば『能く生業に勤勉して人の厄介にならず能く豊かに生活して世の爲國の爲に

盡し、環境の人々より愛せられ敬せられて仕合せ多き一生を送らんとす」るに外ならざるなり、

○健全なる國家は必ずや健全なる農村に於て築かざるべからず健全なる農村は必ず健全なる農家の團結にあらざるはなし。

○誰もみな國の爲にと働けばやがて御國の富とこそなれ。

○體建國之義、一致結合以勵稼穡。奉教育之詔、矯風正俗以朋彝倫。講報德之教、勤儉貯蓄以圖富強。

○田園生活は自然なり農夫は土地の王者なり(トルストイ)

第二編 農家經營法

第一章 農家經營の方式

此に一つの中産階級に屬する自作農家を假定し、之を營業部と家計部との二部に分ちて主ら經濟的方面の施設經營を記述し教育衛生娛樂社交等のことについては後編「經營上の注意」及「經營資料」の部に於て略述せんとす。

(甲) 營業部

第一節 農家經營要素調

施設計劃に先ちて農業經營の三要素たる、土地、資本、勞力、につき自家資力の大體を調査すること左の如し。

合理的農家經營法

一、土地

水田 一町歩

畑地 一町歩

宅地 一段歩

山林 三町歩

二、資本

建物 九棟

農具 五十點

家畜 五種

樹木 八種

現品 米外五點

現金 三十圓

三、勞力

男 三人

女 三人

子供 二人

○ 重んずべきは整頓したる家屋にあらすして幸福健全なる家族なり、
 ○ 農民金を持つは社會が金を持つに等し。
 ○ 國の實力は農民の股風にあり。

第二節 農家經營の基礎調査

(一) 農場の自然的狀況

種目	反別	位置	地		質	水		氣象
			地勢	土性		灌溉	排水	
田	第一號	二、〇反	農舎の東續	第四紀新層	粘質壤土	七	河水	日射良 土用中の日照時八時間
	第二號	三、〇	〃三町	平地地	〃	七	〃	通風良
	第三號	三、〇	〃南續		〃	七	〃	平均温度 一七度
	第四號	二、〇	〃東南七丁		砂質壤土	六	河水 暗渠	雨天日數 一四〇日 晴天日數 一七二日
畑	第一號	三、〇	〃西續	第三紀層	〃	七	地下水水位低	曇天日數 五三日
	第二號	三、〇	〃北續	南面傾斜 六度	粘質壤土	六	排水佳良	初霜 十一月下旬
	第三號	二、〇	〃東北三丁		〃	六	〃	終霜 三月下旬
	第四號	二、〇	〃西三丁		砂質壤土	七	〃	終霜 五月下旬
農舎宅地	一、〇	〇	村の東端	第四紀層 平坦	壤土	七	給水便 排水佳良	終期 十二月中 刈始期 五月上
								終期 十月下
曇天日數 五三日 初霜 十一月下旬 終霜 三月下旬 終霜 五月下旬 暴風雨の時期 八月下、 九月上 野外作業の始期 三月下								

○音もなく香もなく常に天地は書かざる經を繰返しつゝ。
 ○心して見れば物皆天地の誠と教へこもらぬはなし。
 ○嫩草萌ゆる春の野に告ぐる教は昔今、聖の語る法よりも多くの道を示すなり。
 ○晴耕雨讀餘力を觀察に用ひて眞理を發見すべし。

山	林
竹林	杉扁柏林
二、〇	二〇、〇
農舎北二丁	〃南十五丁
第三紀層粘質壤土	太古紀片麻岩系
東南面傾斜 八度	北面陰地 二十度
	陽地燥地 八度
	北面燥地 五度
	霧深し
	風強し

(二) 農場の經濟的狀況

種目 調査事項

市場 小市場(地方的需給地)一里、郡道二丁縣道三十四丁

物價

大市場(内地的、世界的需給地)二十里、停車場一里、郡道二丁縣道二里
購買販賣による施設には産業組合あり、

農業に必要な主要物品の價格 (大正七年二月調)

金肥(油粕四圓、大豆粕三圓五十錢、魚肥四圓五十錢、過磷酸石灰一圓五十錢、骨粉
二圓五十錢、木灰一圓、鷄糞一圓)以上十貫目の價

手肥(生草一圓、乾草五圓、紫雲英一圓五十錢、堆肥二圓、厩肥二圓、下肥一圓五
十錢)以上百貫目の價

飼料其他(米糠四圓、麥糠二圓、秕七圓、粃穀二十錢)以上一石の價

(桑葉三十圓、葉四圓、麥稈二圓、雜稈一圓)以上百貫目の價

主要農産物の價格

米三十圓、麥二十圓、雜穀二十圓、菜種二十五圓(以上一石の價)

根菜二十五錢、果菜三十錢、葉菜二十錢、果物五十錢(以上一貫目の價)

割木五圓、柴四圓、木炭二十五圓(以上百貫目の價)

地價
地代
勞銀
金融

田地五百圓—六百圓、畑地三百圓—四百圓、宅地六百圓、山地三十圓—四十圓
(以上一反歩の價)

田地一石六斗(四十八圓)畑地一石三斗(三十六圓)宅地一石八斗(五十四圓)山林
一圓五十錢(以上一反歩小作料)

男七十錢、女五十錢(一年平均一日の賃銀)

勞力不足の時期 六、七月 十、十一月 農閑期一、二月 八、九月

金利六分—一割、金融機關は信用組合、村立銀行等

○薄利は經營の方法によりて之を除き少利は學理の應用によりて之を免かる。

○一工面二働ニ力量四辛棒五節儉。

○仕事せうより廻りせよ。

○着三層倍、花八層倍、藥九層倍、按摩搦取り、坊主丸儲

(三) 土地に關する調査

地目	反別	公定地價	時價		地租	地代(一年間諸費用)	合計
			單價	總價			
畑	第一號	三〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	一,〇五〇,〇〇〇			
	第二號	三〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一四,四〇〇	二,六〇〇	三,四〇,〇〇〇
	第三號	二〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇			三,六〇,〇〇〇
	第四號	二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇			
	計	一〇,〇〇〇	一,三〇〇,〇〇〇	三,六五〇,〇〇〇			
田	第一號	二〇,〇〇〇	五五〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇			
	第二號	三〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇	二七,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四三,五〇〇
	第三號	三〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇			四八〇,〇〇〇
	第四號	二〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇			
	計	一〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	五,八〇〇,〇〇〇			

宅地	山林					合計
	竹林	櫟林	松林	杉林	扁柏林	
一〇	二〇	三〇	五〇	一〇	一〇	五二〇
七〇,〇〇〇	八,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇	一,〇一三,〇〇〇
六〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇	一,一,〇五〇,〇〇〇
一,七五〇	一,二二〇	一,八二五	四,一九七五		四,三六〇	四,三六〇
二,六五二						六,五〇〇
四九,六五						八六,一〇〇
五四,〇〇〇	四五,〇〇〇					九九,〇〇〇

備考

- 一、地租は田畑とも地價百分の四半宅地は同二半山林同五半とす
- 二、公課は地租の一半掛とす但し田の公課には水利費を含む
- 三、土地の評價は購入したる時は買價開墾したる時は素地の買價に開墾費を加へて其價格とす購買價不明なる時は收益價を求め又は附近土地の賣買價格を參酌して之を評定す

(四) 資本に関する調査
(イ) 土地改良資本

種目	数量	新設費		時價	使用年數	一年間諸費用		計
		買入費	運賃			資本利子	償却金	
灌溉用樋器	三間	一五〇〇	四〇	四〇〇〇	一五	二、六七〇	三、〇〇〇	六、六七〇
暗渠排水工事	三反	一、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	三〇	一、八〇〇	一、五〇〇	四、三〇〇
耕地整理費	一〇反	一〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一	三、〇〇〇	—	三、〇〇〇
合計		一一、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	二四五、〇〇〇		六、四七〇	四、五〇〇	三、九七〇

備考 一、使用年限は保存年限又は土地改良の有効年限なり償却金は改良工事の有効年限を終りたる後再び新設に要する積立金なり

二、土地改良資本の評価は該事業の費用價即ち新設費を計算し得るものにより左式による、

$$\text{時價} = \frac{\text{新設費} \times (\text{全保存年數} - \text{經過年數})}{\text{全保存年數}}$$

此の如く一度評價したる後は年々一定割合の減價を差引きて時價とす減價の算出左の如し。

$$\text{時價を基礎とする場合} \quad \text{減價} = \frac{\text{時價} \times \text{將來の保存年數}}{\text{新設費} \times \text{全保存年數}}$$

$$\text{新設費を基礎とする場合} \quad \text{減價} = \frac{\text{新設費} \times \text{全保存年數}}{\text{新設費} \times \text{全保存年數}}$$

(ロ) 建物資本

種目	棟數	建坪	建築費		時價	建築年月	一年間諸費用		計
			單價	總價			資本利子	償却金	
住宅	一	三五	三〇、〇〇〇	一、〇〇五、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	明治六年	六〇、三〇〇	一〇、〇五〇	八〇、四〇〇
倉庫	一	一〇	五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	三八〇、〇〇〇	同二十年	三〇、〇〇〇	三、三〇〇	三六、三〇〇
蔵室	一	二〇	三〇、〇〇〇	八四〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	同四十年	五〇、〇〇〇	八、四〇〇	六七、二〇〇
納屋	一	三〇	二〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	同廿五年	三六、〇〇〇	七、四〇〇	四九、四〇〇
肥料舎	一	一〇	一八、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	同十二年	一〇、八〇〇	六、〇〇〇	一八、六〇〇
畜舎	一	三三	一八、〇〇〇	二六、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	同年	一六、八〇〇	九、三〇〇	二六、九〇〇

合計	温床	井戸	鶏舎
九三〇	一八	一	一
一、五〇〇	三〇、〇〇〇	八、〇〇〇	三三、〇〇〇
三、九〇、〇〇〇	三、九〇、〇〇〇	一八、〇〇〇	三、九〇、〇〇〇
二、六六、〇〇〇	五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	二、六六、〇〇〇
	大正六年	明治卅年	大正三年
二九、四〇〇	九、六〇〇	三、六〇〇	一、六〇〇
五八、六九〇	三、〇〇〇	六〇〇	一、九〇〇
三元、〇五〇	一、〇〇〇	六〇〇	三、〇〇〇
三七、一六〇	三、八〇〇	四、八〇〇	六、七〇〇

備考 一、資本の利子は六分、償却金見積は使用年数を以て建築原價を除したる概算、修繕費は原價の百分の一を見積りたり。

二、建物の評價は其建築費又は購買價と使用の程度を參酌して之を定む。

三、建築費は費用價によりて之を定め之を原價又は新築費といふより使用による減價を差引きたるものを時價とす。

○建物の用途

土地の生産物取扱に便宜を與へ間接に生産を助くるに過ぎず、建物如何に大なりと雖農場生産の額は増加するものにあらず其之を設くるは生産物を保護し、生産の材料を保存する爲め止を得ざるに出づ故に學者は之を稱

して「必要なる害物」といふ並を以て建物は出來得る限り可成小ならしむるを原則とす

(ハ) 農具資本

種目	數量	單價	原價	時價	使用年限	資本利子	年間諸費用	計
耕用大	二	一、五〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一〇	一八〇	三〇〇	七八〇
作中	六	一、二〇〇	七、二〇〇	五、〇〇〇	一〇	四三〇	七〇〇	一、八三〇
備中	五	一、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	一〇	五〇〇	五〇〇	一、三〇〇
唐	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七〇〇	一五	〇六〇	〇九〇	二五〇
持立	一	一、五〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一五	〇九〇	〇一〇	二九〇
株切	一	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	七	一八〇	四〇〇	一、一〇〇
馬把	二	五〇〇	一、〇〇〇	七〇〇	一〇	〇六〇	一〇〇	二六〇
ホク	一	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	一〇	一四〇	一〇〇	四四〇
ホク	二	一、五〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	五	一八〇	六〇〇	七八〇

カ ル ト ン	蠶 座	庖 丁	判 器	蠶 架	調 合 桶	押 切	飼 槽	養 畜 鞍	肥 入 桶	荷 車	擔 棒	肥 桶	運 搬 用
六	二〇〇	二	一	四	二	一	五	一	三	一	四	四	
二五〇	一五〇	一,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	二,五〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	五〇〇	八,〇〇〇	三〇〇	一,二〇〇	
一,五〇〇	三,〇〇〇	二,〇〇〇	四,〇〇〇	八,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	五,〇〇〇	三,〇〇〇	一,五〇〇	八,〇〇〇	一,二〇〇	四,八〇〇	
一,五〇〇	二〇,〇〇〇	一,五〇〇	三,〇〇〇	六,〇〇〇	一,五〇〇	二,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	七,〇〇〇	一,〇〇〇	四,〇〇〇	
三	七	五	一〇	一〇	一〇	一〇	四	一〇	五	一〇	五	五	
〇九〇	一,八〇〇	二二〇	二四〇	四八〇	三三〇	一五〇	三〇〇	一八〇	〇九〇	四八〇	〇三〇	二八八	
五〇〇	九九〇	四〇〇	四〇〇	八〇〇	二〇〇	二五〇	一,一五〇	三〇〇	三〇〇	八〇〇	二四〇	九六〇	
	三,〇〇〇		二〇〇	八〇〇				三〇〇		四〇〇		二四〇	
五九〇	五,七九〇	五二〇	八四〇	二,〇〇〇	三四〇	四〇〇	一,五五〇	六〇〇	三九〇	一,六八〇	九六〇	一,四八八	

臼 及 杵	萬 石 篩	摺 白	麥 箕 機	唐 箕 機	調 製 用 器	脫 穀 器	稻 扱	木 鎌	草 鎌	雁 爪	收 穫 用	シ ョ ベ ル
二	三	一	一	三	一	一	四	三	五	四	一	
二,〇〇〇	五〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	三〇〇	五,〇〇〇	八,〇〇〇	二,〇〇〇	二五,〇〇〇	二,〇〇〇	三〇〇	二五〇	一,五〇〇
二,〇〇〇	一,五〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	九〇〇	五,〇〇〇	八,〇〇〇	六,〇〇〇	二五,〇〇〇	八,〇〇〇	九〇〇	一,二五〇	一,五〇〇
一,〇〇〇	一,五〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	九〇〇	四,〇〇〇	七,〇〇〇	五,〇〇〇	二〇,〇〇〇	七,〇〇〇	九〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
二〇	五	二〇	二〇	二	一五	三〇	一五	一五	二	二	一〇	五
三三〇	〇九〇	三〇〇	三〇〇	〇一〇	三〇〇	四八〇	三六〇	一,五〇〇	四八〇	〇五八	〇七八	〇九〇
一〇〇	三〇〇	二五〇	二五〇	四五〇	三〇〇	二六五	二〇〇	一,六〇〇	六〇〇	四五〇	六五〇	二二〇
		二〇〇	三〇〇		二〇〇	二〇〇	六〇〇	一,〇〇〇	八〇〇			二〇〇
三三〇	三九〇	七五〇	七五〇	五〇〇	八三〇	一,〇四五	一,一六〇	四,一〇〇	一,八八〇	五〇〇	七三〇	三九〇

鉈	鋸	斧	繩	製	檢	用副	噴	乾	桑	給	折	桑	
鉈	鋸	斧	繩	製	檢	業噴	霧	温	切	桑	給	折	桑
鉈	鋸	斧	繩	製	檢	業噴	霧	温	切	桑	給	折	桑
二	二	一	一	一	二	一	一	三	二	二	一	一	
四〇〇	八〇〇	一,五〇〇	二〇,〇〇〇	三,〇〇〇	一,五〇〇	一,五〇〇	五,〇〇〇	一,〇〇〇	二〇〇	三〇〇	二,五〇〇	七〇〇	
八〇〇	一,六〇〇	一,五〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	一,五〇〇	五,〇〇〇	三,〇〇〇	四〇〇	六〇〇	二,五〇〇	七〇〇	
五〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一八,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	一,〇〇〇	四,〇〇〇	二,〇〇〇	四〇〇	五〇〇	二,〇〇〇	七〇〇	
五	五	一〇	一〇	二〇	二〇	五	一〇	五	五	一〇	一〇	三	
〇四八	〇九六	〇九〇	一,一〇〇	一八〇	二〇〇	〇九〇	三〇〇	二二〇	〇四	〇六	一五	〇五	
一六〇	三三〇	一五〇	二,〇〇〇	二〇〇	四〇〇	三〇〇	五〇〇	〇七	〇八	〇〇	二五	三〇	
一	二〇〇	一	二〇〇	一	一	五〇〇	一,三〇〇	一	一	一	二〇〇	一	
二八	六六	二四〇	三,四〇〇	三八	五二	三九	一,三〇〇	一九	三〇	四〇	六〇〇	六八〇	

合	計	標	計	標	計	標	計	標	計
一	五〇〇	二二,二五	五〇〇	一七,七〇〇	四〇〇	一〇	三,七四	三,〇五〇	三,〇四〇
一	五〇〇	二二,二五	五〇〇	一七,七〇〇	四〇〇	一〇	三,七四	三,〇五〇	三,〇四〇

備考 一、償却金は使用年数を以て總價を除したるもの修繕費は原價の五分又は一割にて概算せり
 但し小農具には修繕によりて使用年数を延長し又は更新するものあり、
 二、農具の評價は買價により自作品は費用價を基礎とし建物資本に準じて時價を定むべし、
 又小農具は使用年數定まらざるものなれば一度評價したるものは年々修繕又は新調により
 同一額を維持するものとして評價して可なり、

- 其事を良くせんとせば其器を良くす。
- 鉄の光は家の光
- 劍は武士の魂、鉄は百姓の魂
- 鉄を使へば光るなり
- 鉄を洗はれば疲れが休まらぬ

(二) 家畜資本

種目	數量	原價		時價		飼養年限	資本利子一年間諸費用	資本利子償却金一保護費一計
		單價	總價	單價	總價			
牛	一	110,000	110,000	180,000	180,000	一〇	七,200	21,000
豚	二	15,000	30,000	50,000	100,000	五	1,800	4,000
鶏	一五	1,000	15,000	1,500	22,500	三	900	3,000
兔	七	500	3,500	700	4,900	二	210	1,000
蜜蜂	五	10,000	50,000	10,000	50,000	三	3,000	4,000
合計			238,500		357,400		13,110	27,000
								10,000
								49,110

備考 一、利子償却金の計算は建物資本に同じ保護費は衛生方面の藥品及材料等なり。
 二、家畜の評価は費用價によりて算出するを原則とするも多くの家畜は市價を有するを以て賣價によるを便とすべし

(ホ) 樹木資本

○速かに富まんと欲せば五椽を偏ふべし。(陶朱公)
 ○小農家に、小家畜。牛は農夫の親友
 ○牛馬羊豚は人生の忠僕。
 ○牛馬なければ農業なし。

種目	面積	數量	樹齡	栽植價	時價	更新年限	一年間諸費用		計
							資本利子	償却金一保護費	
杉林	10,000反	1,800本	20-25	60,000	1,000,000	五	3,600	1,100	4,700
扁柏林	10,000	1,800	20-25	60,000	1,000,000	五	3,600	1,100	4,700
松林	5,000	1,000	5-10	15,000	350,000	五	900	300	1,200
櫟林	3,000	1,000	4-7	12,000	350,000	五	1,100	400	1,500
竹林	2,000	2,000	1-3	30,000	160,000	一〇〇	1,800	300	2,100
合計									17,500

合計	畑		
	桑樹	苹果樹	柿樹
三六、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
	四、〇〇〇	二〇〇	六〇
	四六	一〇	一〇
五五、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇
三二八、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
	一五	五	六
三〇、九〇〇	九、六〇〇	五、四〇〇	四、八〇〇
一七、六八〇	一〇、六八〇	二、〇〇〇	一、六〇〇
三三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
六〇、五八〇	三三、二八〇	一〇、四〇〇	九、四〇〇

備考 一、栽植費は苗木植付費下草刈費用を含む

二、櫟は十年にして萌芽更新し五十年にして株を更新す

三、果樹は栽植費に結果收支償ふまでの諸費を含む

四、樹木資本の評価法は費用價によりて評價するを原則とす

即評價期迄に費したる費用を積算するものなり、
但し果樹にありては一年間の收支が相償ふに至る前年迄の年々の費用より果樹に生ずる
収益を差引き、林木は栽植後評價時までの年々の経費より間伐等による収入を差引き重
利法にて積算するものとす

- 百年の計は樹を植うるにあり
- 山林は一の貯蓄機關なり
- 山高きが故に貴からず木あるを以て貴しとす。
- 老樹を虐待するは祖先を虐待するに等し。
- 伐木は森林の壯年時代たるべし、幼年は充實せず老年脆弱なり

(ハ) 流通資本

種目	數量	見積價格		利子一年間諸費用計
		單價	總價	
米	三石	三〇、〇〇〇	三九〇、〇〇〇	三三、一〇〇
雜穀	三點		一〇〇、〇〇〇	
種物	三		五、〇〇〇	
貨幣			三〇〇、〇〇〇	二、四〇〇
合計			四四五、〇〇〇	三三、六〇〇

合理的農家經營法

備考 一、現物資本の評價法

購入品は買價により販賣品も普通市價に準じて之を定むべし
 自家生産の現品にして更に農業用家計用に消費するものは普通市價に準じて定むるを便
 とす

二、貸付資本の評價は説明に及ばず但し未収入金にありては収入の日まで●利子を差引くも
 のとす

三、流通資本に對する利子見積額は年八厘とす

○現金の用途

- 一、現金は農場に於ける凡ての他の資本の缺損補充又は増額に用ひらる
- 二、現金は農業の活動を起すが爲に用ひらる
- 三、現金は諸種の農業用原料購入の爲に用ひらる
- 四、現金は諸税諸雜費の支辨に供せらる

(五) 勞力に関する調査

種目	調査事項		備考	
	戸主との續柄	氏名		
家族勞力	戸主	作米	四二	社交上止むを得ざる休日多し 主ら農場の作業 農學校卒業農場作業に活動す 主ら農場作業及炊事紡織に従事す 家畜の管理、蔬菜園手入炊事、留守居等 農閑裁縫學校通學、農事家事手傳 小學校通學主ら鶏草花擔任す 小學校通學主ら兎擔當す
	老父	作兵衛	六四	
	長男	農夫生	二〇	
	妻	鐵子	三九	
	老母	およね	六一	
	長女	八重子	一六	
備人勞力	次男	學	一二	
	次女	君子	八	
合計			一三七〇	

合理的農家經營法

- 資本を農地に投じ吾手を以て吾地を耕す農夫は實に夫れ幸福なり。
- 凡そ人間の道は衣食を作り出すにあり其潤澤を以て身命を養ふにあり。
- 傭人多き時は心を使へ傭人少き時は身を使へ、
- 労働の眞價は時と處を問はず全く均一なりと謂ふべし、
- 三年耕必有一年之食、九年耕必有三年之食、以三十年之通有凶旱水溢民無菜食 太宰春臺

第三節 經營要素の確立

(一) 自給資力の總額

- 一、土地價格 一萬一千五十圓
- 二、資本總額 七千二百二十三圓十錢

内 譯

- 土地改良資本 二百四十五圓
- 建物資本 二千六百二十八圓
- 農具資本 百六十七圓七十錢
- 家畜資本 三百五十七圓四十錢

- 樹木資本 三千二百八十圓
- 流通資本 四百四十五圓
- 三、家族勞力 八百二十二圓
- (二) 自給資力に對する報酬推定額
- 合 計 二千二百九十二圓二十四錢四厘

内 譯

- 一、地代(小作料) 九百三十九圓
- 二、資本の利子 三百二十八圓二十三錢四厘
- 三、資本償却金 百二十七圓九十二錢
- 四、資本修保費 七十五圓九錢
- 五、勞 銀 八百二十二圓 (勞力延一千三百七十日
男女平均一日六十錢)

○治産の要道

- 一、健康を増進して體力の活動を大にすること。

- 二、知能を啓發して知力の活躍を盛にすること。
- 三、道徳を涵養して體力の活動を大にすること。
- 四、根氣を練磨して意力の強固を期すること。

第四節 事業計劃

農業經營の要素につきましては前記の如く充分の基礎調査をなしたり、これより事業計劃をなさんとするに當り先づ考慮を要すべきものは農業組織の決定これなり。即ち農業經營の要素は之を適當の種類及び適當の分量に蒐集して之を結合して組織的形態を作るにあらざれば企業經營の目的たる最少の費用を以て持續的に最多の利益を擧ぐることはざるなり。然して斯る組織は農業に於ては決して一定せるものにあらずして千差萬別殆ど極りなく一地に適するもの必ずしも他地に適するにあらず故に經營者たり企業者たるものは能く其農場の自然的狀況、並に經濟的狀況を研究したる上尙且つ自己の能力に鑑みて之に適應したる農業組織を定めざるべからず、要するに農業の經營は時と場所と人との合致せる合理的事業形態を組織するにあらざれば決して其成功を期すること能はざるべし。

吾人は今此理に基きて本農場の經營を土地の利用と家族勞力の配當とに注意して主業に米麥作を副

業に養蠶を首位として園藝養畜林業より各種餘業に至るまで苟くも行ふて利益あるものは採つて以て之を按配せる至極複雑なる農業組織を以て經營せんとするにあり

(一) 作付計劃

種	目		土地	資		勞力	主產物	副產物	備考
	夏作	冬作		種苗	自給肥				
伊勢錦	三反		堆肥	九〇〇	三圓	三人	米	藥 二、〇〇〇	藥は米一石の生産に付七十貫を普通とす挿秧は六月中、收穫は十一月、收穫は十一月、耕牛及改良農具を利用す
關取	三、〇		同	九〇〇	三圓	三人	米	藥 二、〇〇〇	
神力	三、〇		綠肥	二、〇〇〇	三圓	三人	米	藥 二、〇〇〇	
銀餅	一、〇		同	四〇〇	六圓	三人	米	藥 二、〇〇〇	
計	一〇、〇				一〇〇	三人	米	藥 二、〇〇〇	
裸麥	五、〇		堆肥	一、八〇〇	三圓	三人	麥	藥 二、〇〇〇	下種十一月收穫五六月耕牛及改良農具使用紫雲英は反當收量一千貫を普通とす
油菜	二、〇		下肥	七〇〇	三圓	三人	麥	藥 二、〇〇〇	
紫雲英	三、〇		木灰	四〇〇	九圓	三人	麥	藥 二、〇〇〇	

合計	畑				計
	地	桑園	果樹	蔬菜	
10,000	計	計	計	計	計
	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	樹苗	桑苗	蘋果	柿	間作
	六	四	二〇	二〇	若干
	五升三合				
		下堆肥	木下堆肥	木下堆肥	木下堆肥
		一〇〇〇	二五〇	八〇〇	四〇〇
二七四	八	六	三	一	英
五四	二八一	六	六	四	三
	四〇樹苗十萬本	桑葉一、六〇〇	蘋果 二五〇	柿 二五〇	蔬菜 六〇〇
		枝梢 二〇束			雜穀 一〇石
					雜穀 一〇〇
	苗木は一年生にて賣却の見込	桑葉は反當四百貫	柿と蘋果は風土に適し將來有望なり		この外宅地の一部も蔬菜草花を栽培す

(一) 養蠶計劃

合計	種目			蠶種	飼料	數量	勞力	主產物	副產物	備考
	春	夏	秋							
合計	蠶	蠶	蠶	一、六〇〇	桑葉	一、六〇〇	七人	上繭	六貫	
				七〇〇	木炭	七〇〇	三人	中繭	五貫	
				二五〇	穀殼	二五〇	二人	下繭	二〇貫	
									蠶沙 七〇	
										稚蠶は共同飼育をなす蠶沙は蠶量一匁に對し二十貫内外とす

(二) 養畜計劃

種目	頭數	飼料	數量	勞力	主產物	副產物	備考
豚	三	麥糠	一	二	仔豚	二〇	農場殘滓及紫雲英生草等は埋草を製し用ふ
牛	二	米糠	四	二	成豚	五	
	一	屑穀	二、五	五	豚牛	二、〇〇〇	

合理的農家經營法

種	目	土地	資本	勞力	主產物	副產物	備考
禽	レグホーン	一〇	紫雲英	一、四〇〇	卵	一、五〇〇	生餌として田螺蛤を採集して用ふ
兔	間鴨	五	乾草	五〇〇	廢禽	一五	小動物の飼養は主として子供に分擔せしむ
蜂	ベルギー	七	蠶沙	七〇〇	兔	二〇	
合	カーニオラン	五	庖厨殘滓	無量	蜂蜜	三〇	
計					二〇八		

(四) 林業計劃

種	目	土地	資本	勞力	主產物	副產物	備考
用材	杉、扁柏	三		三人	樹皮	三四	作業は冬春の農閑期運搬には牛及荷車を利用す
薪炭	松、櫟	八		二人	松脂	五	
竹材	眞竹	五	堆肥	二人	竹材	一〇	孟宗も竹材を利用す
合	孟宗竹	三		六	竹材	三〇	
計					五		

(五) 餘業計劃

種	目	原料	數量	勞力	種類	數量	種類	數量	備考
水産	鯉	鯉兒	一、〇〇〇尾	一人	鯉	一〇	鯉	七	鯉は稻田に鰻は居室内の小池に飼養す
促成	成栽	醸熟原料	一、〇〇〇	三人	胡瓜	八〇〇個	依	八〇枚	醸熟物は後に堆肥原料に渣用す
藥	細工	藥	五〇〇	三人	繩	一〇〇個	履物	三〇〇	堆肥には肥沃なる溝土及下水を用ふ
肥料	製造	厩肥	四、〇〇〇	二人	堆肥	六、〇〇〇			
秣	刈	生草	一、〇〇〇	五人	生草	二、〇〇〇	乾草	五〇〇	
合	計								

○日本の經濟は稻作にあり。
○麥は手入七分に肥料三分。

- 蔬菜栽培は都市を距ること六七里にして免租の地を選ばんよりも寧ろ五十乃至百圓の税金を納むるも一里以内の地を求むるの有利なるに如かず(ヘデルソン)
- 擇んで植ふよ既に樹て之を擇ふこと勿れ(荀子)
- 竹伐三を留め四を去る
- 良馬は燕麥の糞より出づ
- 養蠶の利益は栽桑にあり
- 農業の利益は副業にあり

第五節 經營費豫算

事業年度の始に當り豫め農場に必要な物品を準備し或は入用の都度需要し得る様に考慮し置きて年中農務の進行を妨げざるを期し、之が經營豫算を立てざるべからず豫算作成の方法は農業經營の基礎調査並に前章の事業計劃に原づきて算出すべきものにして可成細目に亘るを可とすれども却て要領を失するの恐あるが故に此には可成簡單にして明確なる方法によりて立案せり。

(一) 支出の部

科	目	豫算額		備考	決算額	
		数量	單價		數量	單價
土地	(地代)					
	小作料		九元、〇〇	土地に関する調査参照		
資本	(固定資本)					
	土地改良費		二二、九七	資本に関する調査参照		
	建物諸費		三七、一六〇	同上		
	農具諸費		二〇、〇〇〇	改良農具新調の見込		
	農具新調費		四五、八四	資本に関する調査参照		
	家畜諸費		四九、二〇	同上		
	樹木諸費		六〇、五八〇	同上		
	計		五五、六四四			
(流通資本)	利子		三五、六〇〇	同上 現金現物は年度始準備資金		

蠶種	樹苗	蔬菜	雜穀	紫雲英	麥種	種計	種苗	草木灰	綠肥	下肥	堆肥	金肥	肥料
種	苗	菜	種	英	種	升	粉	灰	肥	肥	肥	肥	料
三	五		三	五	五	三	升	六	一、六〇〇	一、二〇〇	六、〇〇〇		
一、二〇〇			二〇〇	四〇〇	二〇〇			一〇〇	〇二五	〇二〇	〇二〇	二七四、〇〇〇	
三六、〇〇〇	八、〇〇〇	五、〇〇〇	六〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	四八、〇〇〇	六、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	三二〇、〇〇〇	二七四、〇〇〇	禽、兔の糞は金肥の一部とす
購入	桑種子三合 杉扁柏種子四升七合	自給又は購入	自給	購入	自給	自給		家計部より自給	紫雲英	家計部より自給	全部自給		

乾草	生草	麥糠	米糠	枇	屑	桑葉	飼料	計	仔鰻	仔鯉	仔兔	仔豚	種卵
草	生	糠	糠	枇	屑	葉	料	計	鰻	鯉	兔	豚	卵
五〇〇	一、四〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	一、六〇〇	費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	三〇〇	四〇〇	
〇五〇	〇一五	二、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	一五、〇〇〇	三〇〇		〇三〇	〇二〇	二〇〇	一〇、〇〇〇	〇四〇	
二五、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	八、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三七、五〇〇	四八〇、〇〇〇		九五、六〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一、六〇〇
自給	紫雲英及生草なり 埋草の原料とす	同上自給	家計部より自給	自給	自給	全部自給		購入	購入	自給	自給	自給	自給

藥	粉	木	春	依	繩	藥	砂	蠶	庖厨殘滓	雜穀
品	殼	炭				計	糖	沙	滓	稈
						一、六〇〇	二斤	五〇〇	七〇〇	一、〇〇〇
						〇四	三〇〇	〇四	〇三〇	〇二五
						六九、五〇〇	六、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二二、〇〇〇	一五、〇〇〇
						蠶簇及細工原料	購入、蜂の餌料	自給	自給	家計部より自給
						七、五〇〇				主として敷薬とす
						二〇、〇〇〇				
						三、〇〇〇				
						二、五〇〇				
						八、〇〇〇				
						二六、〇〇〇				
						購入、消毒用				

竹材	丸太	針金、釘	促成原料	堆肥原料 生草	同共諸費	計	勞力
三〇	二〇		五〇〇	一、四、〇〇〇		一、三七〇	日
一五〇	二〇〇		〇二〇	〇一五		六〇〇	
四、五〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二四、五〇〇	八三、〇〇〇	
自給	自給	購入	自給	自給	稚蠶、苗代共同其他	勞力に関する調査参照	
						三七八九八四	

備考 一、決算額は事業終了決算の上之を朱記するものこす
 二、豫算と比較し其増減の基く理由を備考欄に朱記し次年度の参考となすべし

畑							
計	樹	桑	枝	桑	萃	雜	蔬
苗	苗	梢	葉	果	柿	穀	菜
十 万 本	二 万 本	三 三 束	一 六 〇 〇 束	一 五 〇	二 〇 〇	一 〇 〇	六 〇 〇
一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	〇〇〇	三〇〇	七〇〇	六〇〇	二〇,〇〇〇	二〇〇
九九二,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四八〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	二二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二二〇,〇〇〇
	反當三十萬本	反當七萬二千本	反當四百貫	反當七十五貫	反當百貫		

(二) 收入の部

水田					
(冬作)			(夏作)		
菜	麥	屑	計	屑	米
種	種	麥	穀	米	米
四、〇〇〇	八〇〇	五	三石	四石	二、〇〇〇
二五,〇〇〇	〇一〇	一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇	二、〇〇〇
一〇〇,〇〇〇	一六,〇〇〇	五,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	八,〇〇〇	二〇,〇〇〇
			反當二石六斗	反當四ハの割	反當二百貫割
				反當四ハの割	反當二百貫割

餘業	養蠶				計	
	(水産)鯉 鰻	(促成)胡瓜 (菓細工)筵	中 繭 功	下 繭 功	上 繭 功	計
一貫 二,五〇〇	七 三,〇〇〇	八〇 〇五	八〇 二〇〇	七 〇三〇	四,〇〇〇	二〇〇
二,五〇〇	二,五〇〇	三,〇〇〇	〇五	〇〇	〇一五	一〇〇
二五,〇〇〇	二五,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四,〇〇〇	二〇,〇〇〇	四九〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
	九六四,〇〇〇	三三,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二二,〇〇〇		

蠶量一匁收繭額三貫七
百匁

山林	家畜				計	
	計	竹 材	薪 炭	間 伐	豚 豚	雞 肥
三〇〇本	二 四,〇〇〇	五 一,〇〇〇	三 三〇〇	三 一八,〇〇〇	四 八〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇
三〇〇束	二 一〇,〇〇〇	五 一,〇〇〇	三 三〇〇	三 一八,〇〇〇	四 八〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇
八〇〇本	二 一〇,〇〇〇	五 一,〇〇〇	三 三〇〇	三 一八,〇〇〇	四 八〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇
三〇〇束	二 一〇,〇〇〇	五 一,〇〇〇	三 三〇〇	三 一八,〇〇〇	四 八〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇
二〇〇	二 一〇,〇〇〇	五 一,〇〇〇	三 三〇〇	三 一八,〇〇〇	四 八〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇
六〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇	五 一,〇〇〇	三 三〇〇	三 一八,〇〇〇	四 八〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇
二〇〇	二 一〇,〇〇〇	五 一,〇〇〇	三 三〇〇	三 一八,〇〇〇	四 八〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇
一〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇	五 一,〇〇〇	三 三〇〇	三 一八,〇〇〇	四 八〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇
二〇〇	二 一〇,〇〇〇	五 一,〇〇〇	三 三〇〇	三 一八,〇〇〇	四 八〇,〇〇〇	二 一〇,〇〇〇
	一八七,〇〇〇	九,〇〇〇	二五,〇〇〇	一八,〇〇〇	四九〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇

杉扁柏材
間伐除伐打等
孟宗筍
雞、間鴨とも更新す
一巢箱六貫の割

收支差引	計					
	依	春	繩	履物	(秣草)牛草	乾草
	100	100	100	100	1,000	500
	100	300	150	300	200	500
	110,000	3,000	15,000	9,000	20,000	15,000
					110,000	48,000
合計	461,000					
純益(企業益)						83,150

備考 決算額の記入及注意支出の部に同じ

○農業の純益は理想的の計劃と合理的の實行によりて豫期することを得べし。
 ○農より起る利潤は人より受くるものにあらずして天の賜なれば潔白なること他に比すべくもあらず(ケイト)
 ○一莖の牧草を生ずべき地に二莖の牧草を生ぜしめ一本の穂を生ずる穂に二本の穂を生ぜしむる人こそ萬人の政治家に優りて貴し(フキフト)
 ○農は地中より最も高價なる有機的生産物を得るの術なり(テール)

第六節 營業部所得總額

項目	豫算額	備考	決算額	備考
企業利益	83,150	經營費豫算の純益		
土地利潤	86,100	經營基礎調査の部参照地代の内地租公課支拂殘額		
資本償却金	27,900	積立金として所得す		
資本利子	36,200	固定流通資本の利子		
家族勞力	83,000	家族勞銀一三七〇の報酬		
合計	2,96,400			

第七節 所得處分法

項目	豫算額	備考	決算額	備考
償却積立金	二七、九二	固定資本の償却金		
家産造成貯金	一〇〇、〇〇〇	基本財産造成用		
營業資金	五三、八九〇	次年度の營業資金として現品又は現金として繰越す		
家計費	一、二五、六〇〇	一家生計の諸費に充用す		
合計	二、九六、四二〇			

○世界に黄金の環流あり勤勉なる農夫は能く之を利用す(リービッツ)
 ○苦にするな金は世上に預け置くほしくばやらふ働いて取れ(二宮翁)
 ○天は萬物を人に與へずして其働きに與ふ
 ○善く耕したる小農地は等閑に附したる大農地よりも其生産多し。
 ○精出して耕せ秋の實りは賣つて餘つて庫に一杯フランクリン)

(乙) 家計部

第一節 家計財産調

(一) 土地及建物調査

本書は中産の自作農家を假定したるものなるを以て自作地以外に小作地を所得せず又營業用以外に建物なし、居室まで營業部にて處置せり。

(二) 家具類の調査

種目	數量	原價		時價	備考
		單價	總價		
庖厨用具	五、	四、〇〇〇	二〇、〇〇〇	四、〇〇〇	
竈	一、	三、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇	
鍋	七、		二一、〇〇〇		

時 ^ト	衝 ^ク	屏 ^ビ	置 ^キ	花 ^ハ	掛 ^ケ	扁 ^ヘ	裁 ^カ	鏡 ^{キョウ}	長 ^{チヤウ}	什器部	鹽 ^{シホ}	桶 ^{ツツ}
計 ^{ケイ}	立 ^{タテ}	風 ^{カゼ}	物 ^{モノ}	瓶 ^{ビン}	軸 ^{シユク}	額 ^{ガク}	具 ^グ	臺 ^{ダイ}	持 ^チ	箆 ^{ヘラ}	類 ^{ルイ}	類 ^{ルイ}
二	一	二	五	三	五	三	三	四	四	四	五	〇
10,000	5,000	10,000	10,000	10,000	10,000	5,000	5,000	7,000	10,000	30,000	2,000	1,500
10,000	5,000	40,000	50,000	30,000	50,000	15,000	15,000	28,000	40,000	210,000	10,000	15,000
5,000	1,000	10,000	35,000	25,000	25,000	10,000	3,000	5,000	22,000	110,000	1,000	2,000

戶 ^ド	火 ^カ	鐵 ^{テツ}	茶 ^{チャ}	茶 ^{チャ}	飯 ^{イハ}	米 ^メ
棚 ^{テウ}	鉢 ^{ハチ}	瓶 ^{ビン}	器 ^キ	盆 ^{ハシラ}	壺 ^{ウツ}	碗 ^{ワン}
三	一〇	三	三	一〇	一〇	四
110,000	5,000	7,000	5,000	1,000	1,000	2,000
20,000	50,000	22,000	15,000	10,000	10,000	8,000
10,000	30,000	15,000	7,000	2,000	2,000	10,000

種目	數量	單價	總價	備考
現品 白米	三〇升	三三〇圓	九九〇〇圓	前年度繰越品
麥	一〇	二〇〇	二,〇〇〇	

(四) 現品及び現金調

種目	數量	單價	總價	利子	備考
債權 公債證券	千圓券一枚	一,〇〇〇,〇〇〇圓	一,〇〇〇,〇〇〇圓	五〇,〇〇〇圓	家産造成積立金
農工債券	五十圓券十枚	五〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	利子九朱の割
組合貯金	一口		二〇〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	一口は月掛三圓
債務			一,〇〇〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	
差引合計			一,〇〇〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	

(三) 債權及債務調

合計	圖書部 圖書類	履物類	傘類	帽子類	上衣類	座布類	蚊帳類	蒲團類	被服部 着物類	文具類	書架類	机類
	一〇〇	三〇	二〇	一〇	八	四	五	三	五	四	二	四
	一,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一,五〇〇	一五,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三,〇〇〇
	二,三六,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	九〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇	二〇,〇〇〇	三三,〇〇〇
	四〇七,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三,〇〇〇	五,〇〇〇	三,〇〇〇	一〇,〇〇〇	八,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	二,〇〇〇

	現金	計	大 <small>大豆</small>	小 <small>豆</small>	蜂 <small>蜜</small>
合	手元有金		五	三	一、五
計			二〇〇	二〇〇	三〇
			一、〇〇〇	四、五〇〇	一八、〇〇〇
			二〇、〇〇〇	三、〇〇〇	元、〇〇〇
			前年度繰越金

- 愛する家の子を持たば家も亦愛らしくせよ。
- 金銭を愛する心は金銭を増すに従つて愈々増す。
- 米を望む時は藁より作る金を望む時は人を作る。
- 仕事たんとすりやお天道様がたんと下さるお給金
- 勤儉力行は無限の金脈であり絶へざる財の源泉である

第二節 家計費豫算

營業部と生計部との帳簿は嚴に區別して其收支の範圍を正確にすべきは勿論可成は其主簿者をも其にするを良とす。即ち一家の主人は營業部を主婦は家計部を主管するが如きは頗る適切にして其實を正確ならしむるを得べし。

又一家の生計は其營業の收入によりて支出を制すべきものなれば毎年其年始に於て豫め正確なる收入を推定して其内輪に於て支出の豫算を立つべし、決して支出を收入に超過せしめ以て負債を生ずるが如きことあるべからず。蓋し一家の會計整はざるときは家族の不和を起し家運日に月に衰頽すること火を睹るよりも明かなり。されば一家經營の任にあるものは此點に深く留意し奢侈を戒め冗費を慎み以て家運の隆興繁榮を進むることに努めざるべからず。

(一) 收入の部

科目	豫算		備考	決算	
	数量	単價		数量	単價
財産收入					
公債利子	一千圓券		五〇、〇〇〇 家産増成基本金		
農工債券利子	五百圓株		五〇、〇〇〇 同		
組合貯金利子			三、〇〇〇 農家共同貯金		
繰越收入					
繰越物品			一八、〇〇〇 白米外四點前年度繰越		
繰越現金			二〇、〇〇〇 前年度繰越		
雑收入			五、〇〇〇 反古襤褸等賣却		
不用品賣却			一、〇〇〇 月一圓の割にて豚の飼料		
庖厨残滓			二四、〇〇〇 下肥の産量は一年大人九十二貫小人七十一貫を普通とす		
下肥	一、一〇〇貫				
合計					

科目	豫算		備考	決算	
	数量	単價		数量	単價
草木灰	石	六、〇〇〇			
米糠	石	八、〇〇〇	飼料に利用す		
麦糠	石	二、〇〇〇	同		
營業收入		一、二五、六〇〇	營業部所得處分参照		
生計費		一、四一五、六〇〇			
合計					

備考 一、收入の豫算は數年間の統計に基き正確と認むべき科目及び金額を記入し決して不正確なる收入を豫算に計上すべからず。

- 元日や今年もあるぞ大晦日 (二宮翁)
- かれほしと讀む人おかし年の暮 (嵐雲)
- 餅ついてこれから噓をつくばかり (川柳)
- 貯金せし人の威張るや年の暮 (太一翁)
- 節季の病氣は平生の不養生

(11) 支出の部

科目	豫算		備考	決算	
	數量	單價		數量	單價
米	一〇石	三〇,〇〇〇	家族八人一日米三升		
麥	五、五	二〇,〇〇〇	同日麥一升		
蔬菜	三、五	二〇〇	副食用自給		
果物	二、五	六〇〇	同		
肉類	一、五	八〇,〇〇〇	同		
食鹽	一石	一五,〇〇〇	味噌醬油原料		
蜂蜜	三斤	三,〇〇〇	料理用自給		
砂糖	七斤	三,〇〇〇	同		
酒類	一石	八〇,〇〇〇	同		
總額					

科目	數量	單價	備考	數量	單價	總額
煙草						一八,〇〇〇
居住費						
家屋			營業部にて支出せり			
薪炭			自給、桑枝梢及枝打材			五,〇〇〇
點燈			電燈、石油、燐寸等			二五,〇〇〇
什器費						
家具新調			家具購入の見込			二〇,〇〇〇
修繕			家具類の修繕			五,〇〇〇
被服費						
衣類			農服は手織木綿とす			一五,〇〇〇
冠帽			傘、帽子等			一〇,〇〇〇
履物			下駄、草履等			一〇,〇〇〇
交際費						
總額						

合計	慶吊	慈善、公益	修養費	教育	圖書	旅行	義務費	公課	保險料	組合貯金	臨時費	雜費
一、四一五、六〇〇	四〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	二四、〇〇〇	三六、〇〇〇	七五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三六、〇〇〇	八〇、〇〇〇	一八、〇〇〇		
	親戚招待及贈物等		小學校通學二人	新聞雜誌新刊書	慰勞及視察旅行	營業關係以外のもの	生命保險掛金	月掛三圓共同貯金	冠婚葬祭其他疾病不時の準備	理髮其他		

- 富を貯へながら質しき生活をなすは黄金を運びながら薪を食ふ驢馬に等し。
- 勞力を省く農具を買ふも妻の負擔を軽くせざれば不經濟にして正路ならず。
- 浪費は罐の如し家財と身とを磨滅す。
- 飯と汁木綿着物は身を助く其餘は我を責むるものなり。
- 美服は價値なき人の屑に泣く。
- 買はんと欲するものは必之を金囊に相談すべし。
- 儉約は獨り相撲で手はいらず己に克つのかへ名なりせば

第二章 生産物處分一覽表

種目	生産額		販賣高	家事用	農事用	年度末殘格	
	數量	價格				數量	價格
植産物	三三〇石	九六〇、〇〇〇	一一〇石	一〇石	二石	一〇石	三〇〇、〇〇〇
米	二、五〇〇石	三七、五〇〇			二、五石		
屑米	二、〇〇〇石	一〇、〇〇〇			二、〇石		
批							

廢^た 鷄^た 仔^こ 成^が 畜^{ちく} 産^{さん} 物^{ぶつ} 竹^{たけ} 薪^{けがは} 間^ま 樹^き 桑^さ 枝^{えだ} 桑^さ
 禽^{とり} 卵^{たまご} 豚^{ぶた} 豚^{ぶた} 材^ま 炭^{すす} 材^ま 苗^な 苗^な 梢^{えだ} 葉^は

一五	一、五〇〇	五	二	三貫	三〇本	八〇束	三〇〇	十萬本	二萬本	三〇〇	一、六〇〇貫
一八、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	九、〇〇〇	四五、〇〇〇	四、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	七、一〇〇	四八〇、〇〇〇
一〇	一、一六〇	八	二	三貫	二七〇	一〇〇	二八〇				
五	三〇〇	二				八〇				三〇	
	四	三			三	三					一、六〇〇貫
		二						十萬本	二萬本		
		三〇、〇〇〇						一〇〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇		

果^{くだ} 促^そ 雜^ざ 蔬^そ 紫^{むら} 菜^し 菜^な 麥^{むぎ} 屑^{くず} 粉^{こな}
 筍^{たけのこ} 成^{せい} 胡^こ 雲^{うん} 麥^{むぎ} 藥^{くすり}
 物^{もの} 瓜^{うり} 穀^{こく} 菜^{さい} 英^{えい} 稈^こ 種^{たね} 稈^こ 麥^{むぎ} 殼^か

三五	五貫	八〇個	一石	六貫	三、〇〇〇	三貫	四石	八貫	五	三、〇	四〇石	二、〇〇〇貫
三五、〇〇〇	二五、〇〇〇	四〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	四、五〇〇	一〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇	五、〇〇〇	二六〇、〇〇〇	八、〇〇〇	八〇、〇〇〇	
三五	四貫	七〇		三五		四石		七石				
五	二貫	二〇	一石	三五貫				五石				
				三、〇〇〇	三貫	八	五	四〇石	二、〇〇〇			
				五貫				三石				
			一〇、〇〇〇					四〇、〇〇〇				

- 無用のものは鏝錢一文にても高價なり。
- 無用の物を買ふは有用の物を賣る始めなり。
- 儉約の仕方は不自由を忍ぶにあり
- 一升の利得より三合の儉約
- 坐して食へば山も空し。
- 量入爲出以節財用。

合	堆	乾	生	履
計	肥	草	草	物
	六、〇〇〇	九〇〇	二、〇〇〇	三〇〇
四、六〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	九、〇〇〇
				三〇〇
	六、〇〇〇	五〇〇	二、〇〇〇	
五四九、〇〇〇				

繩	春	依	菴	餘業產物	鯉	蠶	蠶	雞	厩	蜂	仔	成
一〇〇	一〇	一〇〇	八〇〇	七	七〇〇	二二	二〇〇	四、〇〇〇	三〇	一〇	二〇	
一五、〇〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	四、〇〇〇	二二、〇〇〇	九四、〇〇〇	二〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
			八〇〇	五		二			三		五	
				五					七		五	
一〇〇	一〇	一〇〇			七〇〇		二〇〇	四、〇〇〇				
				七					一			
				二一、〇〇〇					二、〇〇〇			

第三章 年度末資產增減表

項目	年度始資產		增異		減動		年度末資產	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
田	一〇	五、八〇〇、〇〇〇		二〇〇、〇〇〇			一〇	六、〇〇〇、〇〇〇
畑	一〇	三、六五〇、〇〇〇					一〇	三、六五〇、〇〇〇
宅地	一	六〇〇、〇〇〇					一	六〇〇、〇〇〇
山林	三〇	一、〇〇〇、〇〇〇		一〇〇、〇〇〇			三〇	一、一〇〇、〇〇〇
計	五二	一一、〇五〇、〇〇〇		三〇〇、〇〇〇			五二	一一、三五〇、〇〇〇
土地改良	八	二、四〇〇、〇〇〇					八	二、四〇〇、〇〇〇
建物	八	二、六八〇、〇〇〇					八	二、五九〇、〇〇〇
農具	五〇	一、六七〇、〇〇〇					五〇	一、六六〇、〇〇〇
家具	四〇	四〇七、〇〇〇					四〇	四〇一、〇〇〇
計	一〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇		五、〇〇〇			一〇〇	五、九〇〇、〇〇〇
新調				五八、六九〇				
減損				一、五〇〇				
差引				五、二〇〇				
騰貴								

項目	年度始資產		增異		減動		年度末資產	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
家畜	一〇	三、五七〇、〇〇〇		五〇、〇〇〇			一〇	四、〇七〇、〇〇〇
樹木	一	三、一八〇、〇〇〇		一一〇、〇〇〇			一	三、四〇〇、〇〇〇
營業藏品	七	四、五〇〇、〇〇〇		三、四〇〇、〇〇〇			七	五、四〇〇、〇〇〇
家事藏品	五	一、八〇〇、〇〇〇		二、〇〇〇、〇〇〇			五	二、〇〇〇、〇〇〇
計	三三	七、五二七、〇〇〇		二、〇〇〇、〇〇〇			三三	九、七五七、〇〇〇
營業現金		三〇、〇〇〇						三〇、〇〇〇
家事現金		一一〇、〇〇〇						一一〇、〇〇〇
公債		一、〇〇〇、〇〇〇						一、〇〇〇、〇〇〇
債券		五〇〇、〇〇〇						五〇〇、〇〇〇
貯金		二〇〇、〇〇〇		一、二七、九二〇				一、三二七、九二〇
計		一、七五〇、〇〇〇		一、二七、九二〇				二、〇二七、九二〇
營業ノ利益								
同								
増殖								
増殖								
同								
計								

差引合計 (増 加)	負	
	未拂金	借金
110,374,700		
1,731,610		
75,550		
1,656,370		
21,975,070		

(一) 富貴になる藥。

此藥至つて苦味ある故、凡人の口に適し難し。

儉約、堪忍、家業出精、正直、知足、實義の六味を薬とし、柔和、謙遜、氣量、發明の四味を加へ慈悲一片を入れて煎じ常に用ふるにあり。

(二) 貧窮になる藥。

此藥味甘く誰にも服用し易し、美食、色慾、遊藝、侈奢、多聞、我儘、諸勝負、諸相場、殺生好、喧嘩、口論、不快、不孝、家内不和、諛言、不實情、吝嗇、奸佞、邪曲、不敬、不遜、慘虐、過言、詔諛の藥品を常に酒浸にし猶本情なき一片入れ無分別と不養生に短氣、無法、情弱、不費用の六味を加へ煎じ用ふれば常に朝寢と家業不精は一杯になる。

第三編 農家經營の實務

第一章 營業年度の決定

農業は毎年同様の仕事を繰返し多くは一年一回其結果を見るべき種類の仕事より成立するものなれば一ヶ年を以て其事業年度とす。然して事業年度の始期は主要作物の收穫終り肥料飼料等の評價困難なる貯藏品少く且つ農家の最も閑散なる時期を可とするが故に我邦にては大體二月一日を以て最適期となすべし。

第二章 年中行事の設定

二月 (如月)

立春 四日 (年により二日に當ることあり五日に當ることあり)

東風解氷、黃鳥現院、魚上氷

雨水 十九日 (年により十八日に當ることあり二十日に當ることあり)
土脈潤起、霞、始、草木萌動

○あれたれど隣の藁屋梅さけば住みかはりても見まほしきかな。
○そろ／＼と木の芽匂へる春風の空でたこやらいかのあへもの。

年度始業務

前年度の決算、本年度の設計、豫算編成、農場器具の調査、家政の整理

畑作 ◎促成用茄、胡瓜、蕃茄、甘藷の温床下種◎早生馬鈴薯を植う◎早生苦苣、甘藍、花椰菜の移植◎寒土當歸、蔞、野蜀葵、草苺等の肥培◎緑肥作物及木本作物に施肥◎各種菜園の地拵へ下種の用意◎苗床用肥土は細かく篩ひて雨にあたらぬ處に圍ひ置くべし◎米糠油粕等液肥に混じ腐熟せしむ。

田作

◎麥油菜、豌豆、蠶豆等の冬作物中耕施肥◎麥踏を行ふべし、◎水田の畦畔燒を行ふ、◎暗渠排水の施設又は修理◎苗代の準備。

果樹園

◎梨、栗、巴旦杏の下種及び接木◎梅、葡萄、柘榴、無花果、佛手柑、須具利の挿木◎

苺畑の掃除施肥敷薬をなす◎各種果樹に中熟肥料を施す◎剪定、寒氣強き地は切口に蠟又は種油を塗布す◎棚作りの修理新設◎蟄蟲及卵塊採集◎樹勢衰へたる老木は思切つて剪斷し根際をよく耕起して液肥を施すべし◎苺の斑葉病豫防及ボルドウ液撒布。

蠶桑

◎寒水浴後の蠶種保護に一層の注意を要す◎蠶種貯藏室は四十度を昇すべからず◎蠶具の購入又は豫約◎修理及準備は本月中に終了す◎中下旬より新設桑園の植付◎野鼠驅除と耕耘施肥◎新植には苗木選擇、寒地産の根張十分なるものは何れの國にも發育良好◎夏秋蠶専用桑園は大葉の種類を栽植す。

茶業

◎焙爐の築造其他製造場の修繕◎茶園第二回の基肥を施す◎葉捲蟲、蟻蟲、貝殼蟲赤壁蟲なめくぢ等の卵又は幼蟲捕殺す。

林業

◎暖地苗圃は落葉潤葉樹、松類の假植◎苗圃地耕耨◎根肥施用◎樅檜、柏、樺類は上旬に下種す◎中旬床替始む◎薪炭製造に努むべし。

竹林

◎孟宗付は本月より三月に涉りて移植可なり◎本月限り苦竹淡竹の伐採終る◎苦竹淡竹は此月尙施肥又は盛土を行ふ◎垣根の修理早生筍の掘取を行ふ。

養畜

◎牛は分挽近づく一層注意し飲用水は温かきものを與へ馬は時々胡蘿蔔の如きものを與ふ◎鶏は中下旬より産卵力増加す。良飼料を與へ獸骨を粉碎して給與す◎防寒に注意すべし。

養蜂

◎越冬中に屬するも多少蜂の出遊を見る◎巢箱は尙保温につとめ暖地にて蜂の出遊を見る場合には少量づゝ獎勵餌を給して働蜂の繁殖を圖るべし◎巢門より曲金を挿入して斃死蜂を掻出すべし◎防寒に注意すべし◎蜜源には梅、川柳、椿、櫻桃、からも枇杷等咲く。

園藝

◎草花類の温床下種◎宿根花卉類の株分◎百日紅、山茶花、躑躅、レンギョウ等の挿木◎草花花卉類の移植◎温室の害蟲驅除につとむ◎下旬より日中だけ各種花物の霜除を除き日光に觸れしむ◎庭樹宿根の花卉には油粕、魚肥等の腐熟せるものを與ふ。

雑事

◎枯草の原野は此節焼くべし◎第四期地租田方二分五厘上納◎二正月、十一日紀元節、十五日涅槃會 二十五日長男誕生日

三月 (彌生)

啓蟄 五日 (年により六日に當ることあり)

蟄蟲放戸、桃始笑、菜蟲化蝶。

春分 二十日 (年により二十一日に當ることあり)

雀始巢、櫻始開、雷乃發聲。

春分には大地南極北極の正中線に至り、彼岸中日は晝夜平等にて土地愈々慣れし柔和也、之を春耕の中時とし草木以て發動す、陰曆三月は草木繁生するが故に之を彌生と稱し春耕の上時とす。

○なづな咲く花の匂ひに暮れかれて霞にのこる今日の山畑。
○田樂の木の芽に腹もはるの野や霞の帯をゆるめてぞ吹く。

畑作

◎茄、瓜類、南瓜、冬瓜類、蕃茄、刀豆、甘藷等の温床下種◎夏大根甘日大根、早生胡蘿蔔、茶菜、蕃杏、菊芋、亞米利加防風等の下種◎特用作物藍、人參、糖甘蔗三極、雁皮、楮等の下種◎茗荷夏葱、玉葱の定植◎馬鈴薯蓮根早生薑等を栽植す◎分葱の分植移植宜し◎豌豆に支柱を施す。

田作

◎苗代の準備◎苗代は強風を避け日當りよく灌水の便ある妙質壤土を選ぶべし。◎本田の耕鋤◎水田溝渠の手入◎麥油菜の終耕止草。

果樹園

◎各種果樹類の下種◎葡萄無花果の挿木◎各種果樹の剪定施肥定植◎棚作の修理◎梨蠶柑橘の赤壁蝨、鐵壁蝨、活動を始むるを以て石灰硫黄合劑を撒布すべし◎各種の蟻其害蟲の昇降を防ぐ爲めコールタール又は糶を樹幹に塗抹すべし。

蠶桑

◎各種蠶具の整頓及蠶室の修理。◎秋蠶用蠶種の貯藏(風穴)は春分前後を可とす。◎蠶室消毒◎桑樹に尺蠖蟲發生す◎桑の芽出肥を施すべし◎桑樹の新植に宜し◎春蠶用の桑は不用部分の小梢を刈取りて發芽生長を助け夏秋蠶用の桑園は株際(かみかき)の土を掘上げて臺直をなし、十分根肥を施して更に覆土すべし◎早生桑を接木す。

茶業

◎淺耕を行ひ且除草を行ふこと◎新茶園を設くるは本月中下旬を下種の適期とす◎上旬頃より芽出肥として腐熟したる肥料を施すこと◎害蟲前月に同じ四斗式ボルドウ液を撒布すべし。

林業

◎下種の好適期なり◎床替挿木を始む◎苗圃は晩霜、森林は晩雪の害に注意◎陽地生十五六年以上の松樹に地上一丈許の部分數ヶ所樹皮を剥き樹脂を分泌せしめ十月頃凝結するを待ち松

脂を精製すべし。◎山林の防火に注意すべし。

竹林

◎暖地にては本月下旬より孟宗筍發生愈々盛となる◎兎野猪等竹林を荒らす防除に注意すべし◎竹林の周圍に保護樹として樟、杉、椿等の植付をなすべし。◎淡竹林が自然枯の兆候あれば本月内に伐拂ふべし。

養畜

前年六月交尾牛は本月分娩す、室内を清潔温暖とし安靜ならしむべし。◎鶏解化開始の好適期◎産卵盛期となる飽食せしむべし。

養蜂

◎暖地にては蜂漸く活動し活氣を呈す。◎温暖なる日に防寒装置を解き巢門を少し廣くし隔離板を用ふべし◎引繼ぎ獎勵的飼養すべし◎盜蜂に注意すべし。

園藝

◎菊苗の分植◎其他宿根花卉類の分植◎諸種花卉類の接木挿木◎秋蒔草花の施肥除草及鉢上げ◎前月下種草花類の間引除草施肥◎各種庭樹類に腐熟肥料を施すべし。

雜

◎第五期地租田方二分五厘所得稅第四期上納◎農路及び溝渠井堰等々の修理。◎三日雜節句◎五日祖先の法事◎十五日妻の誕生日◎二十一日春季皇靈祭彼岸中日◎三

十日休業

四月 (卯月)

清明 (年により四日若くは六日に當ることあり)

女鳥至、鴻雁北、虹始見。

穀雨 (年により二十一日に當ることあり)

葭始生、霜止苗出、牡丹華。

○吹く風と谷の水としなかりせば深山がくれの花を見まじや。
○年々に櫻さくらといひくく櫻にあける年のなきかな。

畑作

○夏作物冷床下種 ○アスパラガス、リーキ、冬葱、防風、欸冬、茗荷、菲、蒨等
分植、○秋蒔葱、玉葱、春蒔、苦苣類の定植 ○三極、楮、雁皮、茶、漆、杞柳、櫨、除蟲菊等の定植
移植 ○桐の根を切截して苗を仕立つるによし ○甘蔗を土中より掘出して定植すべし。

田作

○採種田に關する諸設備 ○稻粃の選種浸種 ○苗代の整地 ○麥及油菜の土寄 ○水田に慈姑
植込むべし。

果樹園

○柿柑橘の居接 ○各種實生果樹の間引施肥 ○各種果樹の假植及定植 ○果樹園の間作 ○柑
橘の瘡痂病其他諸種の病害豫防 ○三斗式ボルドウ液灌注 ○梨、桃、李等の心喰蟲象鼻虫、葉捲蟲、
尺蠖蟲、毛蟲等の發生。

蠶桑

○蠶種は掃立三週間前催青 ○消毒と設備に注意すべし。 ○晩霜に注意 ○桑園を深耕し、
後溝を掘りて基肥を施し土を覆ひ平畦となすべし。 ○桑の結束を解除す、晩霜の恐ある處は五月上
旬まで其儘とすべし。 ○中生桑は上中旬に接木す。

茶業

○茶部屋の整頓 ○製造用具の設備、○茶園間作青刈大豆の下種 ○赤壁蠶、茶蚜蟲、茶尺
蠖、茶ナメクジの發生 ○茶の赤葉枯病、白星病には三斗式ボルドウ液を注ぐ ○早きは本月下旬より
一番茶始む。

林業

○播種の好季節 ○被覆物取除期を誤らざる様注意 ○林地の植付 ○除伐間伐の開始 ○椎茸
の春子を得槽木を立つべし。

竹林

○孟宗筍の出盛となる ○暖地にては淡竹黒竹の筍發生す。 ○雨天の兆候あれば降雨後に
掘受るべし。 ○筍掘取跡の穴へ施肥すべし。

養畜

◎牛馬分挽す◎豚を交尾せしむ◎鶏孵化す◎羽蟲の發生に注意すべし。◎早春より産卵したる鶏は體力大に衰ふ故に飼料に注意すべし。

養蜂

◎花卉野草類の開花多し蜂の活動盛なり◎早きは既に分封すべし◎巢門を適度に開き適宜織箱を用ふべし◎蜂群蕃殖に従ひ空巢脾又は巢礎框を與ふべし◎獎勵餌は本月半まで繼續すべし◎蜂王養成のものは月初に着手すべし。◎分封の取扱管理に注意すべし◎強盛なる蜂群よりは此月の中下旬より採蜜をなすべし。

園藝

◎秋蒔各種草花及温室越冬の草花を花壇に出す◎春蒔草花の移植◎苗床、花壇の間引除草肥培、

雜

◎縣稅地租割、村稅地價割上納

家事

◎三日神武天皇祭◎八日卯月八日灌佛會◎二十日村社春祭

五月 (皇月)

立夏 六日 (年により五日に當ることあり)

蛙始鳴、蚯蚓出、竹筍生。

小滿 廿一日 (年により二十日若しくは二十二日に當ることあり)

蠶起、食桑、紅華榮、麥秋至

八十八夜 立春より八十八日目をいふ五月の二日に當る年により一日に當ることあり三日に當ることあり

當ることあり

○み園生に麥の秋風そよゆきて山時鳥しのび鳴くなり。

○牛にのり牧のうなひが吹く笛は深きさとのしるべとぞ聞く。

畑作

◎陸稻、小豆、粟、胡麻、甜菜、棉等を下種す◎薯蕷類を定植す◎蓮根の移植よし◎薄荷、除蟲菊を分植す◎三月温床下種ものを移植す◎甘藷の莖挿◎除草中耕◎前月直播の甜瓜其他瓜類の操心◎馬鈴薯の除芽◎杞柳の小枝搔取◎各種作物の害虫驅除◎瓜守の驅除◎葱類の採種

田作

◎苗代の管理に注意すべし◎苗代に螟蟲浮塵子發生す、驅除に努むべし◎紫雲英及野草を刈りて肥料の準備をなす◎琉球菌を移植す◎油菜の立枯麥の黑穗を燒棄す。

果樹園

◎柑橘、桃、柘榴等尚挿木するを得◎梅、桃、杏等の順條◎各種果樹摘花摘果◎整枝◎接木の保護◎實生果樹間引施肥◎間作々物肥培◎各種蚜蟲蝨尺蠖には除蟲菊石鹼合劑撒布◎梨の赤壁蝨は石灰硫黄合劑の四五十倍液◎梨の赤星黒星病には三斗式ボルドウ液撒布。

蠶桑

◎春蠶飼育の多忙時なり◎桑は根刈中刈にし直に切截し液肥を施し枝の再發を促すべし◎夏秋蠶専用桑の伐截は八十八夜前後を良とす◎綠肥用大豆播種◎晩霜の豫防◎霜害を受けたるものには速効肥料又は刺戟肥料を施すべし。◎蠶病に注意

茶業

◎一番茶摘採◎製茶を始む◎摘採後剪枝をなすものは直に行ふこと◎淺耕を行ひ御神肥として水肥を施すこと◎茶の赤壁蝨には石灰硫黄合劑の四五十倍液を使す。

林業

◎杉、扁柏、花柏、樅、檜等は發芽七八分に達せる時被薬を除き實の日覆をなすべし◎床替は本月中に結了し新芽發生のものには薄き液肥を施すべし◎苗圃及床換地の除草◎霜害蟲害に注意。

竹林

◎苦竹は本月鞭根を移植して可なり◎筍を立てたる孟宗竹は本月中旬までに梢頭を切拂ふべし◎止り筍(心止まり)の害蟲捕殺を怠るべからず◎籜の拾集◎苦竹林は除草すべし◎孟宗竹の發生年號書付は本月下旬◎立竹の密度に注意し淘汰すべし。

養畜

◎牛の去勢時期は肉用種は生後二ヶ月役用種は生後七ヶ月を可とす◎幼馬は充分保護を加へ生後二ヶ月後より麩に少量の綠肥を混じ與ふ◎豚、馬は本月交尾せしむるを良とす◎羊毛刈るに良し◎養鶏は常に多食せしむる様心掛け午後三四時頃充分飽食せしむ◎卵價下落の時期なるを以て貯藏法に注意すべし◎本月以下鶏孵化を中止すべし。

養蜂

◎蜜源開花最盛◎蕃殖菟蜜其高潮に達す◎繁殖を目的とするものは分封收蜜を目的とするものは盛に菟蜜すべし◎巢門を大にし適宜繼箱を用ふ◎分封と收蜜とを得んとするものは分封後に收蜜すべし◎分封の取扱管理に注意◎巢蟲の繁殖期に入る豫防驅除に努むべし。

園藝

◎花卉類の挿木壓條◎春蒔花卉類の移植

雑事

◎漆の掻取を行ふ◎第四期地租田方二分五厘上納◎五日端午節句◎十二日次男誕生日◎二十七日海軍紀念日、

六月 (水無月)

芒種 六日 (年により五日若くは七日に當ることあり)

蟪蛄生 腐草化螢、梅子黃

夏至 廿二日 (年により二十一日に當ることあり)

乃東枯、菖蒲華、半夏生

夏至は大地南方に運行するの限にて是より大抵五十日を過ぐる時は朝夕稍微涼を催し、秋將聲を發して百舌鳥亦鳴く此時に至つて大地に胚胎せる元素を發生すること既に多く精氣之が爲に減耗す故に土性頗る疎鬆となる之を秋耕の上時とす。

入梅は太陽が黃道上夏至點の前十度に來る時にして六月の十日頃なり此頃より七月の上旬(半夏生の頃)に至るまでは氣候濕潤にして細雨多し、此雨を梅雨といひ梅雨期に入るの意にて入梅の名あり。

○葡えおへし巳が田の面をかへり見てかへる夕や樂しかるらん。

○早苗太れよ七穂に八穂に八穂で八石取るやうに。

畑作

○胡蘿蔔、牛蒡、大小豆、蕪、甘藍、晚甘藍の下種
○欸冬の分植
○甘藍、セルリー、リーキ
花椰菜移植
○夏作物の中耕除草施肥間引
○諸瓜類蕃茄の摘心
○馬鈴薯摘芽
○甘露子、百合の摘花
○草苺の匍技摘去
○甘藷の蔓返
○纏繞する豆類の支柱
○病蟲害の驅除
○茄、馬鈴薯蕃茄の疫病青枯病
胡瓜の露菌病、炭疽病發生す一週間毎にボルドウ液を撒布すべし
○甘蔗苗を挿植す。

田作

○麥の收穫
○本田の整地施肥
○挿秧の最盛期なり
○水田の雁爪打、除草始まる
○本田の螟蟲卵塊を採集す。

果樹園

○整枝及冗枝除去
○摘果及被糞法
○接木の保護
○除草施肥
○間作物の肥培
○病蟲害の驅除豫防
○蚜蟲發生甚し除蟲菊石鹼合劑を撒布す
○葡萄の炭疽病發生すボルドウ液を撒布すべし
○柑橘の落葉病發生するときは二斗五升式ボルドウ液撒布すべし。

蠶桑

○養蠶失敗の場合には充分原因を研究すべし
○不幸稚蠶中不良の兆候を認むれば寧ろ果斷放棄するに如かず
○夏秋蠶の注文及風穴種の掃立
○蠶室蠶具の消毒入念のこと
○桑園の除草施肥
○上旬桑の實を下種す
○中旬種々の厭木及挿木法を行ふ
○春蠶上簇後一週間以内に株直を行ふべし

◎株直後除草中耕し溝を作り速効肥料を液肥として施すべし。

茶業 ◎白星病の豫防、四斗式ボルドウ液撒布◎二番茶後れざる様に注意すべし◎桑園を深耕し病蟲害を驅除すべし。

林業

◎播種床の除草◎曇天又は細雨の日を選び施肥◎梅雨中は日覆を除き生育に注意すべし◎常緑 潤葉樹針葉樹の挿木◎林地の第一回刈◎梅雨中苗圃及道路の排水◎皮付の儘切りたる杉丸太は本月に入り蟲害を蒙ること多し。

竹林

◎入梅中雨後に苗竹の移植よし◎苦竹林は筍發生期なり「トマリ筍」及立竹の密度に注意すべし◎若し淡竹林等に開花するものあれば全林の更新を速にすべし◎新植地の竹林を乾燥せしめざる様梅雨後敷藁を施すべし◎竹に發生年號を記入す◎竹林の除草怠るべからず。

養畜

◎牛は本月交尾せしむるを良とす◎羊の剪毛を行ふ◎豚を始め一般家畜は本月以後水浴せしめ皮膚を清潔にすべし◎舎内の清潔整頓に注意すべし◎飲用水中に古釘又は蕃椒を入れ置くべし◎鶏の産卵減じ卵價騰貴す。

養蜂

◎梅雨期に入れば蜂群の活動頓に衰ふ管理に注意すべし◎栗樹の多き地方には相當優勢

を保つべし◎巢門を擴大して通風を計り巢内よりは隔離板を除く◎分封後の管理收蜜後の管理に注意すべし◎轉地飼養又は適宜飼養すべし◎巢蟲を防除すべし◎古巢蜜蓋を整理し製蠟すべし。

園藝

◎美女櫻、菊、天竺牡丹石竹、躑躅薔薇等の挿木◎開花々卉の手入◎挿木類の手入◎肥培及害蟲の除去。

雑事

◎米穀倉庫の害蟲驅除◎縣稅戶數割村稅戶數割、上納◎上簇祝◎十日早苗振◎下旬農休

(慰勞休)

七月 (文月)

小暑 七日 (年により六日若くは八日に當ることあり)

温風至、蓮始開、鷹乃學習。

大暑 廿三日 (年により廿二日若くは廿四日に當ることあり)

桐始結花、土潤溽暑、大雨時行。

半夏生 夏至の後太陽が黃道上十度を經たる時をいふ、七月の二日又は一日、三日に當る、此頃

は梅雨の終る頃なれば一に「つゆあけ」とも稱す。

土用入 土用は一年に四回あれども夏の土用は稲作に最も日照を要する時なれば特に注意せらる
夏の土用入は本月の十九日又は二十日に相當す。

○君が田の我田に並ぶうれしさよ我田へか、れ君が田の水。

○吹く風をこゝに集めし心地して野中の森の影の涼しさ。

畑作

◎蕎麥、胡蘿蔔、牛蒡、馬鈴薯、秋大根等の下種。春蒔甘藍の移植◎春蒔作物の中耕施肥◎甘藷は第一回中耕後十日間位づ、隔て、五六回蔓返しをなす◎藍の止肥◎堆肥を製し秋蒔作物の基肥に用ふ◎春蒔蔬菜の種子採收◎秋蒔種子の購入◎秋蒔地の整地◎胡瓜其他瓜類の露菌病、炭疽病を防ぐべし。

田作

◎除草盛なり◎害蟲驅除に努むべし◎分蘗旺盛なり灌漑に注意すべし。

果樹園

◎梨の芽接◎無花果、須具利の壓條◎果樹の夏期剪定◎接木挿木の入手◎結果果樹類の肥培◎柿の落果に對する入手◎病蟲害防除◎柑橘銹壁蝨果實を蝕害す石灰硫黃合劑八〇乃至一〇〇倍液を撒布す◎葡萄の浮塵子には石灰硫黃合劑を施す。

蠶桑

◎夏蠶は密飼すべからず◎桑園第二回の除草中耕すべし◎雜草及青刈大豆は直に鋤込むべし秋蠶晩秋蠶用桑園に速効肥料を施すべし。

茶業

◎青刈大豆を鋤込むべし◎前月同様除草◎害蟲は特に浮塵子の發生に注意すべし◎早乾地はつとめて敷草をなすこと◎特に一二年生の茶樹は早魃に注意すること。

林業

◎梅雨晴れを待ち下種床の日覆◎旱天續き床地過乾する時は除草を止め適當の日覆をなし灌漑すべし◎苗木の成育状態に注意し第一回糞肥速効性肥料を施す◎成林の蔓刈下刈。

竹林

◎苦竹の筍發生す◎本月より八月まで苦竹の風害に注意すべし◎籜を採集すべし◎竹林内を耕起し施肥すべし◎害蟲驅除。

養畜

◎畜舎の掃除綠草の給與◎各家畜毎朝水浴せしむべし◎牛は此月に交尾すれば四月に馬は六月に分娩す◎家畜の綠肥は荳科植物を最良とす◎山草を以て厩肥及敷糞の準備をなすべし◎家鴨を抱卵せしむべし。

養蜂

◎盜蜂巢蟲の被害多し◎東北地方は未だ好期なり◎巢門を大にし巢箱に日覆すべし◎暑氣甚しき時には床板を少し抜き涼風を入るべし◎貯蜜缺乏するものは餌養すべし◎雄蜂は既に不用

なれば速に驅除すべし◎蜂蜜、蜂蠟を處理し販賣すべし。

園藝

◎菊、ペコニヤ、カンナ、ゼラニウム等の芽挿葉挿、扶桑、山茶花、石南花の挿木◎カーネーション、ピンク等の壓條◎春蒔草花の移植◎挿木類の手入◎開花々卉類の手入◎盆栽の手入◎病虫害の防除◎肥培。

雑事

◎野草を刈りて飼料堆肥を製す◎宅地租第一期上納、◎廿五日祇園祭(夏祭)◎三十日明治天皇祭。

八月 (葉月)

立秋 八日 (年により七日に當ることあり)

涼風至、寒蟬鳴、蒙霧昇降。

處暑 廿三日 (年により二十一日若くは二十四日に當ることあり)

棉柎開、天地始肅、禾乃登。

二百十日 立春より二百十日、當る日にして八月三十一日か若くは九月一日に當る此頃は暴風あ

り勝なれば農家は此日を厄日として警戒す。されど此日のみが警戒すべき日にはあらで此頃はすべて警戒すべき時なりと知るべし。

◎三町の田畑を作る民人は稻負鳥の名にやたつらん。
◎夕煙り麓の里に棚曳きて月ぞ上れる山風の上に。

畑作

◎秋大根、蕪菁、菘類の下種◎秋蕎麥、秋馬鈴薯の下種◎夏作物の中耕除草施肥◎石刁柏の摘花◎百合の珠芽蕃茄の側芽摘除◎草苺の匍枝除去◎煙草、綿の摘心◎甘藷の蔓返◎陸稻、薑芋類の灌水◎諸作物の早害に注意すべし。

田作

◎除草は穂孕前を以て中止すべし◎稻は穂孕より開花期までの間最多くの水を要す◎開花終り穂先垂下するに至らば排水して乾燥すべし◎第二回稻の螟蟲發生す。

果樹園

◎桃、櫻桃、李、梅の芽接◎無花果、須具利、木苺の挿木◎桃、梨の夏期剪定後枝條發育の狀により新芽の摘除◎葡萄の匍枝相當摘除◎晩梨及苹果に施肥◎落花落果の處理。

蠶桑

◎秋蠶發生◎壯蠶期の注意◎上簇中の注意◎春蠶種の豫約◎桑園の除草早魃に注意す。

茶業

◎三番茶後れざる様にすべし◎摘採後淺耕を行ひ液肥を施すべし◎茶園の乾燥を防ぐべ

し◎幼苗の保護に努むべし。

林業

◎灌水排水及施肥の注意◎秋季床換を行ふべき床地耕耘◎山林の下草刈藁切を行ふ◎害虫に對する保護◎秋伐の好季建築用材の伐採によし。

竹林

◎苦竹は本月初に發生年號記入すべし◎夜盜蟲等を喰害す驅除につとむべし◎籜を拾集すべし◎竹林の除草。

養畜

◎管理の注意前月に同じ◎勞役の家畜は日射病熱射病に注意すべし◎四月妊娠の豚は本月分娩す母豚の隔離をなし特別の管理をなす◎家禽炎熱の爲め産卵減す食餌飲水の腐敗を豫防すべし◎鶏舎に羽蟲糞發生す除蟲菊加用石鹼乳劑の三十倍液を灌注すべし◎雛の發育に注意すべし◎鶏雛換羽を始む。

養蜂

◎蜜源缺乏し炎暑甚敷地方にては殆ど蕃殖停止す◎蜂群の逃去に注意すべし◎巢箱を庇陰に移し巢門を擴大し底板を適宜引抜きて涼風の流入を計るべし◎弱群には適宜の餌養をなすべし強群には獎勵餌をなすべし◎巢蟲の發生盛なり豫防に注意すべし◎蜻蛉、黃蜂の害を防ぐべし。

園藝

◎除蟲菊、蜀葵花、花苧蒲の下種◎牡丹根分の好時期◎蕃薇の挿木◎開花々卉の手入◎

挿木類の手入◎菊ダリヤの肥培摘芽支柱◎病蟲害及雜草の除去

雜事

◎柿澁を製す◎暴風雨襲來の防備◎農閑に依繩等を製し置くべし◎十三日より十六日まで孟蘭盆會◎三十一日天長節

九月 (菊月)

白露 八日 (年により七日に當ることあり)

草薺路白 鵲鳴、玄鳥去。

秋分 廿三日 (年により二十二日若くは二十四日に當ることあり)

雪乃收聲、蟄蟲抔戸、水始涸。

秋分には天地南北兩極の正中線に來り彼岸の中日には晝夜平等にて土地愈々融和也、之を秋耕の中時とし霜降の頃迄は大地も日天照射の精氣なる化育の元素を胚胎すること未だ充實せざるが故に田畝を耕すに人馬の力を勞せずと雖、土地よく細碎するものにて是れ亦天時なり。
◎木の間より見ゆる早田の稻の香をほのかにおくる山おくの風。

○酒止めて田を買はんとも思ふかな秋の垂穂の色づく見れば。

畑作

○燕麥、黑麥、蕪、姫百合、野蜀葵、油菜、薄荷、漆、除蟲菊、泊芙藍、紫雲英の下種
○玉葱、夏葱、分葱、苦苣甘藍類、水菜、菘菜、春菊等の下種
○蕪、木立花椰菜、の定植
○各種特用作物、樹木類の分根移植
○大根菘類の間引中耕施肥
○セルリー、葱等の土寄
○大根菘類の害蟲驅除には除蟲菊石鹼合劑を撒布すべし。

田作

○稻田の排水
○田稗拔取るべし
○品種改良又は良種雜推の爲に穗選を行ふべし
○共同採種田の選定
○白穂拔取
○秋浮塵子發生す
○早稻刈始まる
○稻架の準備すべし。

果樹園

○杏、李、梅等大粒の種子は本月中下旬下種する時は發芽速し、
○小梅、葡萄等の挿木
○實生苗圃に第三回施肥す
○春期接木せる苗圃に第二回補肥す
○落果は販賣又は漬物乾果を製すべし。

蠶桑

○晚秋蠶の掃立をなす
○晚秋蠶飼育の注意
○秋季栽植の桑園設計
○接木苗壓條苗は掘取り用ひて良し
○撞木取の如きは發育後る、故に翌春掘取るべし
○桑樹の下部結束を下旬までに行ふ
○芽接は上旬中に行ふべし。

茶業

○四番茶は飛芽走り芽のみを摘採し樹勢を平均せしむること。
○茶園基肥を茶樹の雨落到に施し土を被ふべし。

林業

○上旬中日覆を除きて苗圃の發育を促し同時に床替の用なきものは第二回施肥
○下旬より秋期床換を行ふ
○暴風害蟲の防除
○秋季伐採
○椎茸栽培の好期なり
○五倍子採集

竹林

○月末より十月に涉り苗竹を移植す
○伐竹の調査及伐竹の符號を附すべし
○月末より伐竹始めて良し。

養畜

○蕃殖に供せざる牡豚は去勢を行ふ
○時々戸外に放牧す
○鶏は本月以後換羽を始むるに
より滋養に富む飼料を與へて充分運動せしむべし
○少量の骨粉、肉粉、魚類殘滓牛馬の骨等好餌料なり
○田裸、雞魚等の副飼料を可及的多量に與ふべし
○鶏孵化せしむるによし。

園藝

○宿根性の強壯なる草花は下旬播種して可なり
○小灌木及多年生の宿根花卉類の分植移植
○下旬より十月に亘り各種庭樹類の移植好適期なり。

養蜂

○蜜源の秋花開き、蜂群活動を始む
○日覆を除き巢門を少しく窄め巢内には隔離板を用ふ
○收蜜すべき蜂群の外は繼箱を取去りて保温につとむ
○前月に引續き獎勵餌をなし蕃殖につとむ

黄蜂の來襲頻繁なり防除につとむべし◎強盛なる蜂群よりは收蜜することを得。

雑事

◎第一期地租畑方宅地山林原野の部五分、所得税第一期縣稅附加稅村稅、所得税割上納
◎五日主人誕生日◎十日休業◎二十三日秋季皇靈祭(彼岸中日)

十月 (神無月)

寒露 八日 (年により七日若くは九日に當ることあり)

鴻雁來、菊花開、蟋蟀在戸

霜降 廿四日 (年により二十三日に當ることあり)

霜始降、雨霽時施、楓蔦黃

○水沓えぬ稻穂は垂れぬ此里に秋の寵者とわれ誇るかな。

○やど毎に千五百の稻をかりつみて足穂の秋を祝ふ里かな。

畑作

◎麥類、豌豆、蠶豆、鬼百合胡葱等の下種◎晚蒔として二年子大根、葱頭、夏葱、薤、苦苣甘藍類、漬菜類、蒨、野蜀葵、蕪菁、蒿等の下種◎早蒔作物の移植又は床替◎秋蒔作物の中

耕除草施肥◎秋蕎麥の中耕培土◎空畑の耕鋤◎鳥獸病蟲害の防除

田作

◎中稻晚稻の穗選をなす◎稻熟す鳥獸の害に注意すべし◎中稻晚稻を刈る◎禾架に注意すべし◎藁の乾燥仕末に注意すべし◎麥の選種黑穗豫防浸法を行ふ。

果樹園

◎新設果樹園の設計及栽植移植◎挿木壓條接木等の手入◎果物の收穫運搬貯藏◎霜害防備◎幼苗の施肥を避くべし◎其他一般の手入前月に同じ◎柑橘類の秋芽に蚜蟲發生す除蟲菊石鹼合劑◎桃梨等の落葉は掻集めて焼棄す◎吊し柿を製す◎葡萄無花果の心蟲を驅除す。

蠶桑

◎晚秋蠶も終了す◎蠶種の保護貯藏上に注意すべし◎終期の大掃除及消毒◎蠶具の整理及片附◎桑の下部結束後中耕し土を株間に盛る◎病株及植替を要すべきものは耕鋤後直に掘採るべし。

茶業

◎茶園の赤燒病、葉枯病豫防の爲ボルドウ液撒布す◎桑園を深耕し土壤を風化せしむ◎元出しと稱し深耕したる後株元の土落葉等を掃除すべし。

林業

◎苗木に霜除をなすべし◎樹苗類の床替◎中旬より秋植の好期間伐除伐始むべし◎薪炭材の伐採◎椎茸原木伐採◎林樹類の種子を採集す◎樹脂を採集す◎漆、櫨の實を採收し蠟を製す。

竹林

◎前月に引續き竹伐◎竹材は大きさにより區別して結束すべし、◎母竹の移植に宜し◎孟宗竹林の施肥を行ふ堆肥、下肥、油粕等。

養畜

山羊◎綿羊を交尾せしむ◎乾草は本月中に製し置かざるべからず◎鶏は換羽未だ終らず管理に注意すべし◎濕氣を避け食餌に少量の胡椒又は蕃椒を與ふべし◎可成放飼すべし◎鶏を孵化せしむるは本月限りとす。

養蜂

◎蜂群活動して貯蜜育兒につめめ越冬準備をなす◎集箱は日當りを良くし被布を稍々厚くし巢門を狭めて温度の保持に努むべし◎下旬まで獎勵餌をなして越冬に充つべき若群の産出をはかるべし◎巢内を検して未完成の巢脾は之を除去すべし◎收蜜を終へし時は繼箱空巢脾共に燻蒸して保存すべし◎小群は合同して越冬の安全を計るべし◎盜蜂と黃蜂の來襲とに注意すべし◎巢内の防濕に注意すべし◎寒地にては越冬の準備をなすべし。

園藝

◎秋蒔草花の手入◎アネモネ、ヒヤシンス、チュウリップ、アマリ、ス等の各種球根類を下種すべし◎苗圃の霜害を防ぐ爲に粗糠或は切藁を覆ふべし◎一般喬木及灌木類移植の好期◎宿根性の花卉類は何れも分植◎秋蒔草花の間引及施肥◎苗圃には下旬より低き蔭屋根を設くべし◎盆栽

は日中、天の時は戶外に出し、夜間は室内に入れて寒害防備すべし。

雑事

◎縣稅地租割を上納す◎七日老父誕生日◎十七日神嘗祭◎三十日天長節祝日

十一月 (霜月)

立冬 八日 (年により七日又は九日に當ることあり)

山茶 始開、地始凍、金盞香。

小雪 廿三日 (年により二十二日又は二十四日に當ることあり)

虹藏不見、朔風拂葉、橘始黃。

○秋さむき里の砧と新そばとどちらが先に打ち始むらむ。

○野邊寒きかへさも樂し我宿にかみたる酒の残りありやと。

畑作

◎麥類下種◎豌豆、蠶豆、小松菜、萵薹芥菜下種◎蒜、韭分植◎裏荷畑を踏壓すべし◎棕櫚の種子を採り埋藏す◎芋、薯、薯類生薑類の種物を貯藏すべし◎楮枝梢剪截すべし◎黃連下種◎土當歸、野蜀葵に塵埃を置くべし。

田作

◎稻藁を積むべし◎稻架の片附をなす◎落穂拾ふべし◎不用地は鋤返して霜に曝すべし◎麥蒔の最中なり。

果樹園

◎柑橘類の霜覆をなすべし◎枇杷柘榴に施肥す◎果樹類を移植す◎落葉を處理し樹膚に附着せる害蟲菌を驅除すべし◎介殼蟲を驅除すべし。

蠶桑

◎蠶種の保護貯藏に注意すべし◎掃除消毒を勵行し總ての整頓をなすべし◎上旬に桑樹の上部結束を行ふ◎寒肥を施す◎中旬深耕し土と畦間に盛る◎耕後直に補植すべし◎各種苗木の掘取を行ひ假植するか又は運搬すべし。

茶業

◎茶の實を採集す◎桑園基肥は遅くとも本月上旬までに施し根の防寒として元寄をなすべし◎一二年生の茶樹は凍傷の害を受くるを以て敷草をなし根の浮上るを豫防すること◎茶の實は麥種子と共に蒔くもよし◎花蕾を除き且茶園整理をなすこと。

林業

◎林樹の枝打を行ふ◎椎茸櫛木伐採す◎樹苗床に防寒手當をなし霜柱多き地には藁、落葉等を被ふべし。

竹林

◎新植地及既成竹林に施肥す◎寒地にては林内に敷藁を施すべし◎寒地にては防寒の爲

め藪巻法(竹を一畝歩位づ、集めて圓錐形に繩巻をなす)を行ふべし◎伐竹及運搬をなす。

養畜

◎牛の交尾をなすに宜し◎家畜家禽の餌料(糞碎米其他)を用意して貯藏すべし。

養蜂

◎蜂の活動俄に衰へ越冬の準備をなす◎越冬準備は巢門を狭め被布を厚くし巢内の保温につとむ◎蜜蜂の防寒として藁藁等にて巢箱を被ふべし◎屋内越冬を行ふも可なり◎月初に調べ弱群のものは合同すべし◎貯蜜不足のものは一時に救助的餌養をなすべし。

園藝

◎秋蒔花卉の苗床を防寒す◎蘇鐵類に防寒用の被覆をなす。

雜草

◎葛根、蕨根を取りて澱粉を製す◎第二期地租畑方宅地山林等五分、縣稅附加稅所得稅

割上納◎三日長女誕生日◎中旬祖先の法事◎十七日より二日間村社秋祭◎二十三日新嘗祭

十二月 (師走) (臘月)

大雪 七日 (年により六日若くは八日に當ることあり)

閉塞成 冬、熊蟄穴、鮭魚群。

冬至 廿二日 (年により廿一日若くは二十三日に當ることあり)

乃東生、藥角解、雪下出麥。

冬至に及べば寒威嚴肅、萬物閉藏し、土地も亦能く凝定す、然れども陸田等明年植うべき作物の爲に今冬の中より其地を耕し、農肥を耕錯し置くが如きは宜しとす。

○ふけにけり、永き夜すがら埋火のもとめて何を語るともなく、
○今は唯一夜となりて葦の矢の射るが如くに年ぞ暮れぬる、

畑作

◎促成蔬菜、晩蒔の麥類、蠶豆、豌豆、藥用人參、薄荷等を下種す◎油菜種用漬菜、大根、蕪菁等の移植◎甘藍花、椰菜、葱頭、高苜の定植◎秋蒔作物の中耕施肥◎紫雲英、草莓、除蟲菊、蒔蘿、葱類は切藁穀を以て防寒、甘◎藍類、高苜類、葱頭の移植、

田作

◎油菜の移植◎藎の移植◎大麥裸麥を移植す◎稻の調製につとむ◎粘土地、苗代の冬耕をなし置くべし。

果樹園

◎砧木用枳殼、柚を下種す◎柿及柑橘の肥培◎夏蜜柑、佛掌柑其他凡ての柑橘を採收するところを得◎柑橘類の貯藏法に注意すべし◎各種防寒に努むべし◎介殼虫を驅除す、

蠶桑

◎苗木の掘採運搬病◎蟲害の驅除◎蠶種貯藏に注意◎桑の下枝冗枝の剪除◎桑株内の掃

除と病蟲害の卵子焼殺◎寒肥を施すべし、

林業

◎苗圃の雪除に對する注意◎苗圃豫定地の耕耘◎間伐除伐◎枝打は最寒の候は見合すべし◎新炭製造◎建築材伐採

竹林

前月に引續き竹伐及運搬に従ふ、

家畜

◎舍内の賊風を絶ち保温に注意し晴天の日には野外に適度の運動をふさしむ◎養鶏は舍内の保温に注意◎牛馬の骨粉、魚粕等を與へ飲料水には硫酸鐵、蕃椒を加へ尙介殼粉を與ふ◎大根、蕪菁等青物を與ふることを怠るべからず◎鶏換羽濟み産卵漸く増加す、

養蜂

◎蜂は蟄居して越冬期に入る◎暖地にては此月の初に防寒設備をなすも可なり◎屋内越冬をなすものは下旬頃屋内に運入るべし◎巢箱其他器具類の整理をなすべし

園藝

花卉類の防寒に注意すべし、

雑事

◎葛根、蕨根を掘取り澱粉を製す◎塵埃を以て堆肥を製す◎農場家屋垣の修理をなす◎第三期地租田方二分五厘所得稅第三期同縣稅附加稅村稅所得稅割上納◎十日老母誕生日◎正月始冬至の休日◎大晦

一月 (睦月)

小寒 六日 (年により五日に當ることあり七日に當ることあり)

芹乃榮 水 泉 動 雉始鳴

大寒 廿一日 (年により二十日又は二十一日に當ることあり)

欸冬華 水 澤 腹堅 雞 始 乳

夫れ大地は萬物の母にして天は萬物の父也、而して大地は來年資生すべき萬物の元素即ち日天照射の精氣を今年秋冬の中より胚胎し、翌春の始に至り徐々に之を發生す。故に毎年冬至は大地北方に運行する限りにて之より大抵五十日過ぐる時は雪を見ざる處の國土は稍微暖を生じ泥莖は芽を抽き水楊は花を開く之を春耕の上時とす。

○雪分けて袖に若菜のつむぎ縞奢らぬ御代の春の樂しき。

○春くれば千代のふる道踏分けて誰芹川に若菜つむらむ。

畑作

○温床内に促成用の菜豆、豌豆、胡瓜紫蘇の下種
○蒔し藎の床替をなす
○春蒔種子の準備

備○各種畑作用液肥の調製
○温床の管理に周到なる注意を要す。

田作

○裸地は鋤返して寒氣に曝すべし
○耕地區劃の整理
○休閑水田の灌漑
○麥油菜紫雲英等の手入。

果樹園

○柑橘の接木砧に供すべき柚、枳殼の下種
○梅の接木は今月を以て適期とす
○接穂挿穂を切採りて土中に埋藏す
○果樹類の剪定
○寒肥を施す
○各種介殼蟲、蠟蟲壁蝨等を驅除す
石灰硫酸合劑の一〇——一五倍液を撒布す
○又石油乳劑、松脂鯨油合劑も可
○或は青酸瓦斯燻燒を行ふも可
○苹果、梨の腐爛病胴枯病葡萄の炭疽病を豫防すべし
○被害部を取り石灰ボルドウ液又は石灰硫酸合劑を塗抹又は撒布す
○蚜蠅類樹皮に潜伏するを以て石油乳劑を塗抹して驅除す
○若芽又は小枝にある害蟲の卵塊を探し努めて摘採すべし。

蠶桑

○蠶種保護の注意
○不時の高温を避け暖室に置くべからず、空氣の流通は必要也
○蠶種の寒水洗は本月上旬とす
○蠶室蠶具の修理
○蠶簇の調製
○桑の寒肥を施し各種病蟲害(尺蠖、天手、介殼蟲、金毛蟲、紋羽病、根腐病、枝枯病)の除去に努むべし。
○殊に強硬なる介殼蟲驅除の好期なるを以て石灰硫黄合劑又は重油を塗布して驅除に努むべし。

茶業

◎茶樹冗枝剪定◎客土排水等茶園改良事項

林業

◎霜柱降雪、寒氣に對する苗の保護◎苗床用各種肥料の豫措◎積雪なき地は造林豫定地の地拵◎枝打を行ふ(寒氣強き時は凍傷の恐ある故に中止)◎開伐を行ふ◎本月より二月中旬に亘り椎茸原料伐採◎薪炭製造

竹林

◎寒地にては林内に敷草をなし溝土を掘上げて所々に盛土をなすを可とす◎孟宗竹林にては早生筍を掘探りて市場に出すべし◎雪積る時は巡視して拂落すべし◎雪折の竹は切り除くべし◎竹林の伐採は仲秋より本月中旬までよし◎伐採終り次第垣根の修理をなす、

養畜

◎豚を交尾せしむ◎前年六月交尾の牛は三月分娩するを以て飼料管理に注意を要す◎養鶏は産卵少し舎内を温暖にし飼料を善くし嚴冬には飲料水に蕃椒を入れ與ふ◎巢鶏は特別に良餌を與ふべし。

養蜂

◎巢箱は前月に引續き専ら温暖乾燥を保つべし◎巢箱繼箱巢礎巢框飼料器其他一切用具の調製準備すべし◎若し弱群越冬の場合には急激なる寒氣襲來を豫知せば一時靜かな暗い室に移すが安全也◎給餌は絶對に行ふてはならぬ◎蜜源植物には枇杷、山茶花等あり。

園藝

◎牡丹の根接、薔薇の壓條◎諸種樹木の移植◎盆栽類の保護◎宿根花卉類に降霜防寒、被覆物の注意を要す◎盆栽は凍傷せざる限り時々灌水し葉面に塵埃なき様に注意すべし◎室内に於けるものは日中陽光に觸れしめ且微温湯を灌水すべし◎椿は本月に入り蕾膨大するを以て温床又は温室に入れて培養すべし。

雑事

◎堆肥を製し寒明けまでに二度切返すべし◎下水溝を浚へ肥料とす◎糞細工、澱粉製造等の副業に従事す◎一日より五日間休業◎五日山の神◎十五日藪入◎十八日次女誕生日◎二十一日大寒

- 一年の計は元旦にあり一日の計は鶏鳴にあり。
- 農功五月急於茲
- 百姓のゆるりと見たる師走かな (反古庵)
- 何を踏んでも此米や踏めんこれも百姓の涙米、
- うかくと暮す瓢と思ひしに腰のあたりに縊り目ぞある、
- 若い時の辛苦は請ふてもせよ、

第三章 事業設計調書の作製

第一節 稻作設計表 (大正△年度)

地名	面積	品種	前作	種子	插秧	收穫期	肥料	備考	
片裏	三〇反	晚神力	裸麥	六升	六月	一坪株	種類 魚肥 綠肥 木燐肥 草燐肥	全量 一、二〇〇 反當 四〇〇	備考 金肥全量 反當一〇圓
樋の口	三〇	關取	紫雲英	六	六月	五六	種類 骨燐肥 過骨燐肥 草燐肥	全量 九〇〇 反當 三〇〇	備考 同上
界外	三〇	伊勢錦	大麥	六	六月	七二	種類 大燐肥 過大燐肥 草燐肥	全量 九〇〇 反當 三〇〇	備考 同上
濱井場	一〇	銀餅	油菜	一	六月	六四	種類 雞糞肥 過雞糞肥 木燐肥	全量 三〇〇 反當 一〇〇	備考 金肥 反當一圓

第二節 冬作設計表 (大正△年度)

地名	面積	品種	前作	種子	下種	收穫	肥料	備考	
片裏	三〇反	紫雲英	神力稻	五	一、七、九、下	六、上	種類 過木燐肥 草燐肥	全量 三〇〇 反當 一〇〇	備考 金肥全量 同反當 九圓 三圓
樋の口	三〇	裸麥	關取	一〇	二、二、上	六、中	種類 大燐肥 過大燐肥 草燐肥	全量 一、五〇〇 反當 三〇〇	備考 金肥 全量 反當 三五圓 七圓
濱井場外	一、〇〇	油菜	伊勢錦	五	二、五、下 移三	五、下	種類 堆肥 下堆肥 過木燐肥	全量 六〇〇 反當 二〇〇	備考 金肥全量 反當 一二圓 六圓

- 苗代半作
- 灰なければ麥蒔くな
- 麥は陽に屬す陰地に作れば病多し。
- 剪の門と麥畑は踏むほどよい
- 彼岸過ぎての麥の肥土用過ぎての稻の肥
- 麥は手入七分肥料三分

合理的農家經營法

- 麥は百日の蒔時に三日の刈旬
- 年貢入らずの畦大豆
- 胡麻の蒔時赤小豆の早蒔
- 半夏とならば手苗放して豆植へよ、
- 豆畑に手入れ過るな。
- 小豆の三青四黄。

第三節 蔬菜園設計表 (大正△年度)

地名	地區	面積	第一期作			第二期作			第三期作			備考
			種類	下種	收穫	種類	下種	收穫	種類	下種	收穫	
宅地畑	第一區	一畝	葱	九月	四月	菜豆	八月	漬菜	八月	二月	堆肥	二〇〇
	第二區	一畝	牛蒡	九月	五月	胡瓜	八月	大根	八月	二月	堆肥	二〇〇
	第三區	一畝	胡蘿蔔	九月	五月	茄瓜	九月	葱	九月	四月	金肥	六〇〇
	第四區	一畝	高菘	九月	四月	蕃茄	九月	甘藍	八月	五月	下肥	一〇〇〇

備考 果樹園の間作等にて百合、蒟蒻、薑、野蜀葵、欸冬、土當歸等適宜に栽培す。

第四節 果樹園設計表 (大正△年度)

地名	面積	種類	品種	樹齡	株數		種類	數量	反當	肥料	整枝	入	收穫										
					總數	反當																	
第一號山	第一區	藥	促成栽培	草	九	一	隨時	—	—	—	—	—	—										
														第一區	三〇	瓜哇薯	六	八	大根	八	二月	堆肥	三〇〇
														第二區	三〇	南芋	六	八	大根	八	二月	堆肥	三〇〇
第二號山	第二區	藥	里薯	芋	四	四	—	—	—	—	—	—	—										
														第三區	三〇	里薯	六	八	大根	八	二月	堆肥	三〇〇
第三號山	第三區	藥	甘藷	藷	五	四	—	—	—	—	—	—	—										
														第四區	四〇	甘藷	六	八	大根	八	二月	堆肥	三〇〇

地名	面積	種類	品種	樹齡	株數		種類	數量	反當	肥料	整枝	入	收穫
					總數	反當							
第二號山	二〇	柿	御所	蜂屋	二〇	四	—	—	—	—	—	—	—
第三號山	二〇	苹果	紅玉	中成子	二〇	六	—	—	—	—	—	—	—

合理的農家經營法

備考 果樹園の周邊及び宅地等に梅、李、櫻桃、棗、枇杷、無花果、梨等一本づゝありて主ら自家用とせり。

- 九耕麻十耕蘿蔔。
- 苗床は淺きに利あり。
- 茄は友の露受ければ千成る。
- 茄は跡七年嫌ふ。
- 茄子に肥きらすな。
- 茄子の色は肥の色。
- 茄子と男は黒いがよい。
- 成るほどちぎる初茄子。
- 大根は根菜の王。
- 甘藍は葉菜の王。
- 葱は農家の總節。
- 月千金芋一升や十五文。
- 親も子も共に肥えたり今年芋。
- 芋頭いでや此世に生れては。

第五節 桑園設計表 (大正△年度)

地名	面積	種類	樹齡	株數	仕立法	肥料	肥料數量反當	肥料數量反當	施肥期	備考
界外	二〇反	多胡(早)	四	二、二〇〇本	根刈	堆肥	六〇〇	三〇〇	三月	
		十文字(晚)	四	一、一〇〇本	根刈	過燐肥	三〇〇	一五〇	六月	
		九紋龍(中)	六	九〇〇	中刈	魚肥	三〇〇	一五〇	寒肥	
		魯桑(晚)	六	一、八〇〇	中刈	過燐肥	三〇〇	一五〇	前同	
廣芝	二、〇	魯桑(晚)	六	一、八〇〇	中刈	草木灰	三〇〇	一五〇	前同	

第六節 苗圃設計表 (大正△年度)

地名	面積	種類	前作	種子數量反當	下種期	肥料	肥料數量反當	手入
城山	四反	魯桑	馬鈴薯	三、八〇〇	六月	油粕肥	一五〇	除草間引
第四號	三	杉	扁柏	三、〇〇〇	上油	油粕	二〇〇	同上日覆霜除害虫驅除
	三	扁柏	杉	二、〇〇〇	上油	油粕	二〇〇	ボルドウ液四回

第七節 養蠶設計表 (大正△年度)

種類	數量	掃立	上簇	桑葉		材		料		備考
				總量	反當	木炭	粟糠	粗殼	藥	
春蠶	五月	五月	五月	六〇	六〇	四斗	八石	二〇	フオルマリン	
夏蠶	七月	七月	七月	六〇	六〇	五斗	〇石	二〇		
秋蠶	八月	八月	八月	四〇〇	五〇	四斗	七石	一六		

第八節 養畜設計表 (大正△年度)

種類	場所	品	種	年齡	數量	準備	種類	時期	生産物	備考
牛	厩舎	但馬牛	種	三才	牝一	飼料敷藁	交尾	翌四月	厩肥	
豚	豚舎	バークシヤ	種	當才	牝一	飼料敷藁	交尾	翌四月	成豚	
禽	鶏舎	褐色レダグホン	種	二才	雄雌各一	飼料種卵	孵化	三月	肥卵	
		ベキンドダツク	種	二才	雄雌各一		肥育	三月	肥卵	

第九節 林業設計表 (大正△年度)

地名	面積	樹種	樹齡	造林法	施業目的	種類	時期	備考
大蔭谷	一〇	杉	二〇—二五	植樹法	用材林	枝打、間伐	冬春	
並木谷	一〇	扁柏	二〇—二五	同齡林	薪炭材	一部皆伐	...	
二ツ川	五	松	五—一〇	...	薪炭材	
城山	三	櫟	四—七	萌芽更新	...	同	...	
城山	一、五	苦竹	一—三	用材林	下草刈	八、八月	...	都合により炭焼を行ふ
城山	五	孟宗竹	一—三	同筍	間伐施肥	四、八月	春秋	

第十節 餘業設計表 (大正△年度)

種目	場所	種類	標準		種類	時期	生産物	備考
			料原	備數量				
水産	界外、水田 宅地内、小池	鯉 鰻	仔鯉 仔鰻	一、〇〇〇 一、〇〇〇	高畦、灌水 飼料	六月 八月	鯉 鰻	
促成栽培	宅地、内	胡瓜 其他	菓落葉 肥菓草	五〇〇	木框据付 栽培	一 四	胡瓜 野蜀葵 土當歸	
秣刈	原野、畦畔	生草 乾草			草刈 乾草製造	四 八	飼料用 生乾藨	
薬細工	納屋	蓆、春繩 履物	薬	二、二〇〇	蓆織 細工	周歲 農閑	蓆依春 繩履物	
製肥	肥料舍	液堆肥	其他肥	四、〇〇〇	堆積 返積	周歲 農閑	液堆肥	

○土地の生産力は施肥量に比例す。
○朝日朝に夕日朝。

- 近田良田。
- 農業の利益は副業にあり。
- 冬の中に春仕事。
- 百姓の財は野外にあり。
- 麻は地を去り豆は花を去る。
- 麥黄なる時麻を蒔き麻黄なる時麥を蒔く。
- 牛馬の冬飼に一握の青草は其効薬石に優れり。
- 良馬は燕麥の糞より出づ。
- 花園にては蒔かぬ種は蒔く種よりも多く生ず。
- 冬雪多き年は翌年木綿よく笑む。

第四章 諸帳簿の整理

今日の農業は純然たる一の營業にして資産の移動甚だ複雑なるものなり。而して此移動より來る資産の増減は實に一家の榮枯盛衰に關係するものなれば苟も農業を經營せんとするものは必ず日々に起る資産の移動を精細確實に記載して以て業務の成績を判知するの資料となさざるべからず。然して之れ

が記録には秩序井然たる合理的帳合法によるべし、之を簿記法といふ。今参考の爲に簿記實行上の利益につき主要なる點を列擧すれば左の如し。

- 一、農業經營上の實蹟を明細に記録するを以て事業の損益を知り得べし。
- 二、又作業の順序を知り經營に要する諸材料の必要高を明かにし得べく従つて將來に對する經營の方針を定むるの參考となるべし。
- 三、農産物の生産費明かなるを以て有利の生産と不利の生産とを明かに知り得べく従つて其取捨の便を與ふ。
- 四、年々の收益を明にし農地の眞價を知り得るを以て農家の堪へ得べき借入の限度も自ら明かになり過重なる借金爲に土地を賣拂ふに至るが如きは之を豫防し得べし。
- 五、生計に要する一切の費用を知るを以て如何なる方面に費用の節約をなすべきかを知り延て勤儉貯蓄の良風を養ふに至るべし。
- 六、日常些細の出來事及び之に對する支出をも記載し整理する時は日常起り易き損失を豫防し且不注意より生ずる損害を免かるゝを得べし。

七、簿記は農業經濟全般に亘る事項を網羅し之を活用するの法なるが故に經濟の基礎をなすと共に之が應用の効をして益々大ならしめ、經濟事情に適合して其宜しきを得るの機敏と打算とに長じ兼て觀察力を養ひ思考力を練磨するの効あり。

之故に農業簿記は可成精密なるを可とし敢て複雑なるを厭はざるべしと雖、今日の農家に俄かに之が實行を迫る能はざる事情あり、故に精密なる複式簿記は大農經營者以外には之を望むこと能はず、之を以て本書に於ては單式簿記法によりて明確に整理すべき方法を記述すべし。

○現世に於ける最も憐むべきものは計算を無視せる農家の末路にあり。

○農家は麥の増收を計るよりも之を作りたる後の計算法を研究し置く覺悟と準備とを第一義とせざるべからず然らざれば底なき桶に水を盛るの愚に終らんのみ。

○道理に耳を籍さずんば道理は爾に鐵拳を見舞はん。

(甲) 營業部

第一節 主要帳簿の種類

一、金錢出納簿

日々の現金出納を明にして残高即ち手元有金を確認し、併せて事業損益決算の基本材料たり。

二、物品出納簿

物品即ち生産物及生産原料の收納支出を明にして残高を確認し併せて事業損益決算の基本材料たり

三、財産臺帳

土地及各種資本に對する價格の増減變化及現在高を確知するの目的にして併せて又事業損益決算の基本材料たり。

四、年度末決算表

年度末に於て前諸帳簿より算出して事業の損益を明かにするものなり。

第二節 金錢出納簿

月日	摘要	收入	支出	残高
二	一 手元有金(前年度繰越高)	110,000 圓		110,000 圓
	三 鉦一挺買入		500	109,500
	五 玄米三俵賣却す	36,000		145,500
	六 玉瀧銀行に預金す		50,000	95,500
	八 肥桶二個買入		2,000	93,500
	一一 鶏卵六十個賣却	11,000		104,500
	一五 田租第一期上納す		6,700	97,800
	二八 (本日手元有高)		9,200	88,600
三	一 前月分繰越高	9,200		97,800
	小計	68,400	68,400	97,800

注意 一、残高の算出は一日一回とし其日に数回の出入ありし時には最後の一回のみ記入するも可なり。

二、月末には『手元有高』と摘要欄に朱記し、其残高を支出欄に朱記すべし。

三、翌月一日には前月末の手元有高を『前月分繰越高』として収入欄に墨記すべし。

第三節 物品出納簿

(一) 生産物の部

米	月日	摘要	收入	支出	残高
	二	現在高(前月分繰越)	13,000石		13,000石
	一	西村仲買に賣却(一石三十圓)		1,100	11,900
	五	本月分食料(家計部に渡)		600	11,300
	二				
	一				

		(手元現在高)	
三	一	小計	
		前月より繰越高	11,100
			11,100

注意 一、記載方、金銭出納簿に同じ

二、此帳簿は現物の種類により米、麥、雜穀、蔬菜、果物、桑、繭、家畜、等の諸部に分ちて記入す、故に記録すべき物品の種類により多少其欄を異にすることあり。

三、之が記帳に當りて其都度現物の評價をなすは、煩雜なるを以て唯其現品の收納支出の數量のみを記入し置き決算の際に其現在高につき又は支出の當時に遡りて其價を定むるを便とす。

穀	雜	月日	摘要	收入	支出	残高
二	一		現在高(前年度繰越)	1,000石		1,000石
			蠶豆			

合理的農家經營法

月日	摘要	收入	支出	残高
二 五	大豆を家計部へ渡す		1,000	1,000
二 七	蕎麥を賣却す		500	500
二 一五	蠶豆を賣却す		1,000	500
二 二八	(手元現在高)			500
三 一	前月より繰越高	大豆 500		500
三 一	小計	2,500	2,500	500

(二) 生産原料の部

月日	摘要	收入	支出	残高
四 一	河合商店より油粕買入	20,000		20,000
四 一〇	油粕を樹苗圃に施用す		1,000	19,000
四 一〇	小計	20,000	1,000	18,000

月日	摘要	收入	支出	残高
四 一二	河合商店より過燐酸石灰買入		50,000	50,000
四 一三	果樹園に過燐酸施用す		20,000	30,000
四 一三	(手元現在高)			30,000
五 一	前月より繰越高	80,000		110,000
五 一	小計	80,000	70,000	40,000

注意 一、記載方前者に同じ

二、此帳簿は現物の種類により肥料、飼料、種苗、材料等の部に分ち記入するものとす。

○經營に交渉なき改良法の實行は底なき桶に水を盛るが如し讚られて貧するのみ
○改良法を疎外せる經營の實施は底なき桶にて水を汲むが如し徒らに勞するのみ

第四節 財産臺帳

(一) 土地臺帳

年月日	摘要	受入 圓	支出 圓	残高 圓
六年 二 一	年度始現在高左の通 田地 一町歩 見積價格 畑地 一町歩 同 宅地 一反歩 同 山林 三町歩 同	五、八〇〇、〇〇〇 三、六五〇、〇〇〇 六〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇		五、八〇〇、〇〇〇 九、四五〇、〇〇〇 一〇、〇五〇、〇〇〇 一一、〇五〇、〇〇〇
七年 一 三 一	年度末評價左の通 田地 一町歩 見積價格 畑地 一町歩 同		六、〇〇〇、〇〇〇 三、六五〇、〇〇〇	

同 二	同 一	前年度より繰越高	合計	合計	合計
			宅地 一反歩 同 山林 三町歩 同 (本年度内増益高)	六〇〇、〇〇〇 一、一〇〇、〇〇〇 三〇〇、〇〇〇	一一、三五〇、〇〇〇 一一、三五〇、〇〇〇 一一、三五〇、〇〇〇
同 二	同 一				一一、三五〇、〇〇〇

注意 一、本簿は土地に對する増減變化を明確に記録するものにして極めて必要なり。

二、受入欄には土地の見積價格又は原價(新に購入したる場合)を記入すべし。

三、賣却したる場合には支出欄に記入するものとす。

四、年度末に至れば土地の評價をなし摘要欄及支出欄共に朱書すべし。

五、受入欄と支出欄との合計を差引し其少額の欄に其差額だけを朱記すべし。此場合に於て

受入欄少額なる時は利益を示し支出欄少額なる時は損失を示す。

(一) 建物臺帳

年月日	摘要	受入 圓	支出 圓	殘高 圓
六年 二 一	年度始現在高左の通			
	住宅 一棟 見積價格	七〇〇,〇〇〇		七〇〇,〇〇〇
	倉庫 一棟 同	三〇〇,〇〇〇		一,〇〇〇,〇〇〇
	蠶室 一棟 同	七〇〇,〇〇〇		一,七〇〇,〇〇〇
	納屋 一棟 同	四〇〇,〇〇〇		二,一〇〇,〇〇〇
	肥料舎 一棟 同	一〇〇,〇〇〇		二,二〇〇,〇〇〇
	畜舎 一棟 同	二〇〇,〇〇〇		二,四〇〇,〇〇〇
	鶏舎 一棟 同	一八〇,〇〇〇		二,五八〇,〇〇〇
	井戸 一棟 同	五〇,〇〇〇		二,六三〇,〇〇〇
	温床 一棟 同	八〇,〇〇〇		二,七一〇,〇〇〇

七年 二 一	前年度繰越高	合 計	七年 二 一	前年度繰越高	合 計
		(本年度内減價高)			
		住宅 一〇,〇五〇(減價の見積)			六八九,九五〇
		倉庫 三,三四〇			三七六,六六〇
		蠶室 八,四〇〇			六九一,六〇〇
		納屋 七,四〇〇			三九二,六〇〇
		肥料舎六,〇〇〇			九四〇,〇〇〇
		畜舎 九,三〇〇			一九〇,七〇〇
		鶏舎 一,六〇〇			一六,四〇〇
		井戸 〇,六〇〇			四九,四〇〇
		温床 三,〇〇〇			六八,〇〇〇
		合 計			五,六九〇
					二,六八,〇〇〇
					二,六八,〇〇〇
					二,六八,〇〇〇

注意 一、記載方法土地の部に同じ。

二、次年度の現在高即ち前年度より繰越となるものは年度末評價の總計なり。

(三) 農具臺帳

年月日	摘要	受入	支出	残高
六年 二 一	年度始現在高	一七、〇〇〇		一七、七〇〇
.. 三	鉞一挺買入	五〇〇		一六、二〇〇
三 一〇	鍬五挺修繕(一挺二十錢)			一六、四〇
.. 一五	古ホーク一挺賣却す		二五	一六、一五〇
.. 二〇	犁一挺修繕	七〇〇		一六、八五〇
五 一	備中鍬、ホーク、剝桑器購入	一〇、〇〇〇		一六、九〇〇
.. 三〇	鍬一挺破損す			一六、九〇〇
七年 一 三二	年度末評價左の通			

七年 二 一	農具總價 (本年度内減損高)		前年度より繰越高
	合	計	
	一八九、五〇〇	一六、二〇〇	一六、一〇〇
	一八九、五〇〇	一三、〇五〇	一六、一〇〇

注意 一、記載方法前者に同じ

二、農具の紛失及破損したるものは毎月末に調査し其旨を摘要欄に記入し置くべし、此際決して受入又は支出欄に金額を記入すべからず。

三、年度末に至つては總ての農具を調査し摘要欄に記入し置きたる紛失及破損を對照し一切評價をなし支出欄に朱記すべし。

四、受入及支出の兩欄を合計差引して一年間に於ける損失額を算出し支出欄に朱記すべし。

(四) 家畜臺帳

年月日	摘要	受入 圓	支出 圓	殘高 圓
六年 二 一	年度始現在高左の通 牛一 豚二 鶏一五 兎七 蜜蜂五 仔豚三頭買入 成豚二頭賣却 廢鶏十五羽賣却	120,000 100,000 13,500 4,900 50,000 30,000		120,000 220,000 301,500 307,400 357,400 367,400
七年 一 三 一	年度末評價左の通 牛一、二十圓増價		100,000	267,400
七年 一 三 一			100,000	267,400

七年 二 一	前年度より繰越	合計	受入 圓	支出 圓	殘高 圓
	豚三、本年の仔成豚となる 鶏一五 右同 兎七 同 蜜蜂 五 (本年度増益高)	172,5000 59,9000		150,000 33,500 4,900 50,000	47,9000
	前年度より繰越	47,9000			47,9000

注意 一、記載方法前者に準ず

二、生産せし場合又は死亡せし場合には唯其旨を摘要欄に記入し置き年度末に評價し損益を算出すべし。

(五) 樹木臺帳

年月日	摘要	受入 圓	支出 圓	殘高 圓
六年 二 一	年度始現在高左の通			
	杉 扁柏 二町歩	二,000,000		二,000,000
	松 五反歩	三五〇,〇〇〇		二,三五〇,〇〇〇
	櫟 三反歩	三五〇,〇〇〇		二,七〇〇,〇〇〇
	竹 二反歩	一六〇,〇〇〇		二,八六〇,〇〇〇
	園地 桑樹 四反歩	三三〇,〇〇〇		三,一九〇,〇〇〇
	果樹 四反歩	二〇〇,〇〇〇		三,三九〇,〇〇〇
七年 一 三 一	年度末評價左の通			
	山林 杉扁柏 反當五圓増加		二,一〇〇,〇〇〇	一,二九〇,〇〇〇
	松 年度始評價通		三五〇,〇〇〇	九四〇,〇〇〇
	櫟 年度始評價通		三五〇,〇〇〇	五九〇,〇〇〇
	竹 ...		一六〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇
	園地 桑樹 年度始評價通		三三〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
	果樹 反當五圓増加		二〇〇,〇〇〇	一,一00,000
	合計	三,四〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇
七年 二 一	前年度より繰越	三,四〇〇,〇〇〇		三,四〇〇,〇〇〇

七年 二 一	前年度より繰越	三,四〇〇,〇〇〇		三,四〇〇,〇〇〇
	合計	三,四〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇
	園地			
	桑樹 年度始評價通		三三〇,〇〇〇	
	果樹 反當五圓増加		二〇〇,〇〇〇	
	(本年度内増價格)	一一〇,〇〇〇		

注意 一、記載方法前者に同じ

二、立木を賣却し林地の一部又は全部裸地はだかとなりて減價甚しきに至りたる場合には賣價を受
入欄に其理由を摘要欄に記入すべし。

- 藤かゆ種生へしためしはなきものを幸のみ祈る人多きかな。
- 早苗とる秧は憂きに汚るれど心は情き賤がなりはひ。
- 正直に家業大事に勉めなば祈らすとても福は來らん。
- 極樂は何處の果と思ひしに家業精出す正直の門。

○閑をせず身を働きて勉あよや萬の福は勞にこそあれ。

第五節 年度末事業決算表

摘 要	資産(年度末資産)	負債(年度始資産)
土地 價格	11,350,000 圓	11,050,000 圓
土地改良資本	240,000	245,000
建物 資本	2,593,300	2,676,000
農具 資本	167,100	167,700
家畜 資本	407,400	377,400
樹木 資本	3,400,000	3,200,000
營業 藏品	549,000	415,000
現 金	310,000	310,000
營業所得 (藏品現金控除)	2,357,410	—

借 金	(利益 高)	合 計
—	2,676,310	110,850,310
—	—	110,850,310

注意 一、決算第一の手續として金銀出納簿、物品出納簿、財産臺帳等につき正確なる帳尻の締切をなし夫々年度末評價額、手元有高(藏品、現金)等より貸付金高を資産(年度末資産)の欄に記入すべし。本例は貸付金詳記の代りに營業新得として總所得より藏品現金を控除したるものを記入せり。

二、第二編(甲)第七、八章参照

三、年度始に於ける資本の總額又は借入金高を負債(年度始資産)の欄に記入すべし。

四、斯くして得たる資産の部の合計と負債の部の合計との差額は即ち事業年度内の損益を示すものなり。

○好三富貴二惡三貧賤一人之情也。然富貴貧賤不_レ在天不_レ在地。又不_レ在三國家一唯在三於人々之一心而已。

遊樂進三分外、艱苦退三分内。則貧賤在二其中一、遊樂退三分内、艱苦進三分外。則富貴在二其中一。(二宮翁)

第六節 補助帳簿

一、農業日誌

主として日々の作業及び其勞働歩合等につき明細に記入し、勞力計算の原簿たるは勿論、農業經營上將來の參考に供する爲め重要なものなり。

二、各部收支決算表

營業の各部に於ける收支計算を明瞭ならしめんが爲に記録するものにして一は農業經營の方針を定むる上に於て一は其事業の改良進歩を圖る上に於て極めて緊要のことなり。

三、覺帳

物品の掛賣掛買其他金錢物品の貸借等其取引の都度記入するは本體なるも相互に繁雜に流れ或は一事業の段落まで現金の取引をなさざる場合等ありて物品並に金錢出納簿に記入するまでの假記載を

なし置く爲に必要なり。

四、農場沿革史

農場に關する由來事業の狀況等を歴史的に記載するものなり。

第七節 農業日誌

月	日	氣象	摘要	主人	長男	老父	妻	老母	長女	傭人	牛	記事
二	一	晴	杉林の枝打 蕙織 家畜温床管理	一	一	一	一	一	一	一	一	薪六〇束を製す 炊事の傍ら蕙 十枚製造す 長女は午後處女會 に出席す
二	二	午前晴 午後曇	竹林墻の修理 繩綯 蕙織 家畜及温床管理	五	五	一	一	一	一	一	一	主人は午後農民大會 長男は青年會に出席 器械繩五貫蕙の原料 蕙十三枚製作 老母は作業の傍ら炊事

合 計	二	晴	—	三	三	一〇	一〇	一七	一〇	
	二八									

注意 一、家事労働は之を掲げざるを本體とするも農閑期には農事の傍ら炊事に従事する場合あり

二、一日の作業を漏れなく記入し終る時は次に縦線を劃し次の日に移るべし。

三、男女又は老幼による労働能力の歩合は事業決算の場合に換算すべし。

四、記事欄には後日農業經營上参考となるものを可成詳細に記載すべし。

○農業の日誌を読み且記せざる農家の意見は狭くして且實際に淺し。

○天は萬物を人に與へずして其働きに與ふ。

○業に勵むものは力あるものよりも其成業大なり。

○労働の眞價は時と處を問はず全く均一なりと謂ふべし。

○職業に忠實なるものは常に快心の天地に活く。

第八節 營業各部收支決算表

(一) 稻作收支の決算例

第二號田 面積三反歩 品種伊勢錦

項 目	摘 要	單 價 格		反 當 額
		圓	圓	
種 苗	(支出の部) 種 粃 六 升 手肥堆肥九百貫	1100	1,100	400
肥 種	餅 粕 二十一貫 金肥 過磷酸 二十一貫 草木灰 十五貫	1010	1,000	6,000
勞 銀	勞力 六十六人	600	3,960	13,100
損 料	農 場 損 料		2,000	3,000
			13,390	

第三編 農家經營の實務

雜費	農具損料	四,五〇〇	一,五〇〇
地代	共同苗代其他諸雜費	六,〇〇〇	二,〇〇〇
	小作料 四石八斗	三〇,〇〇〇	四,〇〇〇
	合計	二五,三〇〇	八四,一〇〇
玄米	(収入の部)		
	九石六斗 反當三石二斗	三〇,〇〇〇	九,〇〇〇
粟	六百貫	〇四,〇〇〇	八,六〇〇
穀	十二石	二,四〇〇	八〇〇
	合計	三四,四〇〇	一〇四,八〇〇
	(差引純益)	六二,一〇〇	二〇,七〇〇

注意 一、地代として小作料を支出すべし、自作農と雖、損益計算を明瞭ならしむる爲に必要也。
 二、小作料支出の場合には租税公課を計上するの要なし、
 三、種苗、肥料、勞力、農場農具の損料、諸雜費割當等を詳細に記入すべし。

(二) 養畜收支決算例

牝牛一、豚二、鶏一雄十四雌 兎七、蜜蜂五、

項目	摘要	單價	總格
家畜原價	(支出の部) 年度始に於ける家畜の價格	圓	圓
飼料敷藁	年度内購入家畜(豚及兎)		三五七,四〇〇
	屑米 二石	一五,〇〇〇	三〇,〇〇〇
	屑麥 五斗	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇
	枇 二石	五,〇〇〇	一〇,〇〇〇
	米糠 二石	四,〇〇〇	八,〇〇〇
	麥糠 一石	二,〇〇〇	二,〇〇〇
	紫雲英 一千四百貫	〇一〇	一四,〇〇〇
	生草 一千貫 (埋草)	〇一五	一五,〇〇〇

家畜原價	勞銀	損料	家畜維持費	雜費
	乾草 五百貫	藥草 五百貫	糞沙 七百貫	雜糧 一千貫
	砂糖 二十斤	炊事殘滓	滓力 二百八日	農場損料
			農具損料	償却金保護費諸費用
			外諸雜費	合計
年度末に於ける家畜評價格	六〇〇	三〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇
	二四、八〇〇	三三、一〇〇	四、三〇〇	四九、七〇〇
			三、〇〇〇	七八、四〇〇
				四七、四〇〇

主産物	副産物	(差引純益)
成豚 二頭		五〇、〇〇〇
仔豚 一五頭		一〇、〇〇〇
鶏卵 一、五〇〇個		〇五〇
廢禽 一五羽		一、一〇〇
肉兎 二〇頭		五〇〇
蜂蜜 三〇貫		三、〇〇〇
厩肥 四、〇〇〇貫		〇一五
鶏糞 二百貫		一〇〇
合計		九二五、四〇〇
		三二七、〇〇〇

注意 一、本表純益は家畜増加による五十圓と收支差引による純益七十七圓（第二編（甲）第六章參照）の合計なり。

注意 一、記載及計算諸事項前者に同じ

(四) 豫算及決算損益勘定表

科目	支		出		合計	收入		損益
	豫算	決算	豫算	決算		豫算	決算	
米作	三六四〇〇	三六四〇〇	一四〇〇〇	一四〇〇〇	八九二〇〇	一、〇九五〇〇	二〇三三〇〇	二〇三三〇〇
麥作	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	二二二〇〇	二八二〇〇〇	四七九〇〇〇	四七九〇〇〇
油菜	一九〇〇〇	一九〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	七七七七	一四五〇〇	一五七六三	一五七六三
紫雲英	二八〇〇〇	二八〇〇〇	—	—	四九〇〇	四五〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇
蔬菜	三六〇〇〇	三六〇〇〇	一六五七七	一六五七七	一三三三	一四〇〇〇〇	二七六三	二七六三
果樹	一四〇〇〇	一四〇〇〇	二二〇〇〇	二二〇〇〇	一五九四五	三三〇〇〇	三三四五〇	三三四五〇
桑樹	一四〇〇〇	一四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	三三二〇〇	四八七〇〇〇	一八四九〇〇	一八四九〇〇
樹苗	三六〇〇〇	三六〇〇〇	二四〇〇〇	二四〇〇〇	九二〇〇元	一四〇〇〇〇	四八九七五	四八九七五
計	九元〇〇〇	九元〇〇〇	一、四七七六〇〇	一、四七七六〇〇	八三三〇〇〇	八三三〇〇〇	八三〇二五六	八三〇二五六

科目	支		出		合計	收入		損益
	豫算	決算	豫算	決算		豫算	決算	
山林	四九〇〇〇	四九〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一六二七四	一八七〇〇〇	一五〇七六	一五〇七六
養畜	二二〇〇〇	二二〇〇〇	一三二一〇〇	一三二一〇〇	四二〇〇〇	四九〇〇〇〇	七七〇〇〇	七七〇〇〇
養蠶	二二〇〇〇	二二〇〇〇	五七八〇〇〇	五七八〇〇〇	七九一九七四	九六七〇〇〇	一七五〇二六	一七五〇二六
餘業	二二〇〇〇	二二〇〇〇	一四〇〇〇〇	一四〇〇〇〇	二八一八〇〇	四八〇〇〇〇	二九二〇〇〇	二九二〇〇〇
計	九元〇〇〇	九元〇〇〇	一、四七七六〇〇	一、四七七六〇〇	八三三〇〇〇	八三三〇〇〇	八三〇二五六	八三〇二五六

注意 一、田畑の地代は夏作八分冬作二分に分割せり。

二、宅地の地代は三分の一を蔬菜より三分の二を養畜養蠶餘業等に分擔す。

三、資本損料は固定資本の諸費及流通資本の利子なり、これを左の割に分擔す。

米三〇、麥八、油菜三、蔬菜三、果樹三、桑樹八、樹苗二、山林一〇、畜産八、養蠶一、餘業六

四、損益欄の△印は損失なり他は皆純益なり。

○五畝の宅之を栽うるに桑を以てせば五十のものを以て布を衣るべし、鶏、豚、狗鹿の貯へ其時を失ふことのないくんば七十のものを以て肉を食ふべし、百畝の田其時を奪ふことなくんば數口の家以て飢うるることなかるべし。(五十)

第九節 覺帳

凡そ物品の賣買は可成現金取引によるを利とすれども、又掛にて取引をなすことも少からず此場合には別に覺帳を作りて之に記入し置き金錢の受拂を終りし時一括して金錢物品の出納簿に記入すべし、又取引先との間に通帳を用ふる時は之を覺帳の一部に代ふるを得べし。

覺帳

借の部				貸の部			
月日	摘要	金額又は数量	仕拂月日	月日	摘要	金額又は数量	受入月日
二五	春蠶種七枚代	三〇〇〇圓	二月二十日 支拂	三一〇	福島氏に 鶏卵十二個	四八〇圓	三月二十日 受入

注意、本簿に記入すべき事項

- 一、各取引先との債權債務。
- 二、賣却購入品の掛賣掛買。
- 三、勞賃支拂の有無勞賃の前拂未拂。
- 四、家賃及地代の分擔。
- 五、其他一時覺えとして記帳し置くべきもの。

第十節 農場沿革史

此帳簿は農業經營に關係ある一切の記録をなすものにして先づ農場の歴史的記事より學術的記事、事業的記事に及ぼし苟も農場の來歴と沿革に關係するものは細大漏さず記録し、後日の参考となすものにして合理的經營上に最も必要な參考資料なりとす。

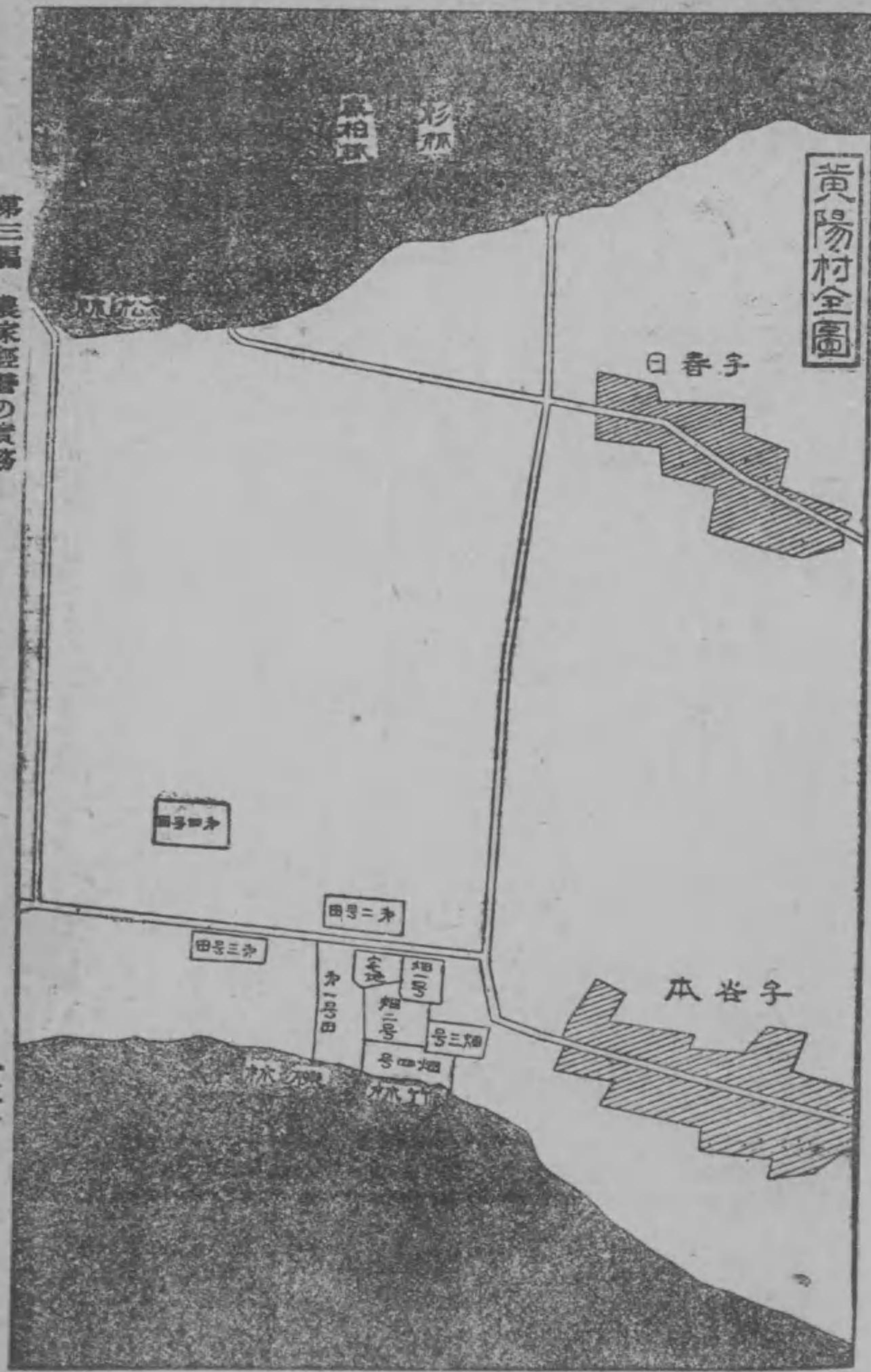
歴史的記事に於ては農場の所得、占有權及用益權に關する事項農場の歴史、前所有者、賣買貸借の經歷、借地契約、土地臺帳の謄本、地租、諸掛、境界地圖等苟も農業に關する權利義務は細大洩さず記載すべし。

學術的記事に於ては農場所在地の氣候、土質及び地位、等級水利等荷も學術に關する各種の事項を詳記し置くべし。

事業的記事には農場の區劃及其面積農場の状態、土地の利用法、灌漑排水、等の土地改良、道路の交通、農業の組織、輪裁法、收穫額若くは其他農業施行に關係ある一切の事項を詳記すべし。

- 世の中に美まじきは山里のことなし草の庵なりけり
- へつらひて富める人よりへつらばで貧しき身こそ心安けれ
- 豊あしのふか野が原を田となして食を求めて食ふ樂しさ
- 壯夫の心をこめて振り上げし鎌の鋒先に米ぞ實のれる
- 天つ日の暑さ寒さを養ひて後こそ秋の實を結ぶなれ
- 土地を戀ひ女房を戀ひて其上に仕事を戀ふる人は仕合せ
- 實りよき小田は菩薩に守らせて庵は戸垣もしめぬ氣樂さ
- 山や野に黄金の花は咲けれども忘る人の手には折られず
- むかし蒔く木の實大木となりにけり今蒔く木の實後の大木
- 苦と樂と花咲く木とをよく見れば心の植へし實の生へしなり

(一) 農場一覽圖

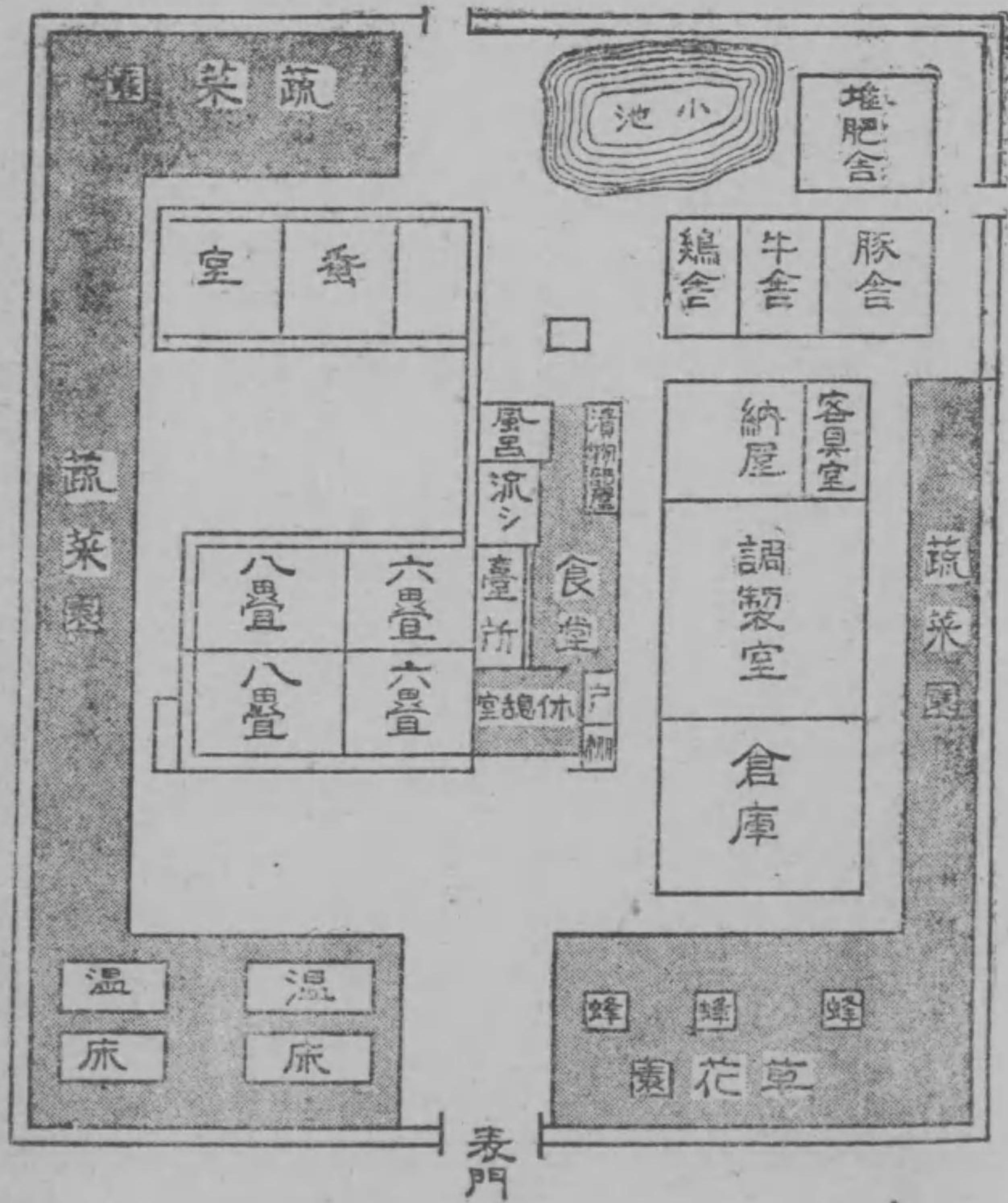


合理的農家經營法

- 近田上田、朝日畑に夕日田
- 軒下は耳にかへても手に入れよ足もぬらさず暮さるゝなり。
- 土地は廣く耕すよりも深く耕せ。
- 建物の農場に於ける位置。
- 大農場は道路の便をすて、農場の中心をとり
- 小農場は農場の中心をすて、道路の便を取るべし。
- 中農場は兩者の中間を採用するを便とす。

- 千年の田地八百の主 ○人間萬事金の世の中
- 辛棒する木に金が成る ○鼻の下の建立一萬坪
- 早く産を求め晩く妻を娶れ ○女房に惚れてお家繁昌
- 悪妻は六十年の不作 ○美服は價値なき人の肩に泣く
- 若い時の苦勞は請ふてもせよ ○心程の世を渡る
- 利息取るより利息拂ふな

(二) 農舍平面圖



○農舎の位置選擇

- 一、高燥にして排水良き地
- 二、空氣清潔にして透通よき地
- 三、日光の射入良しき地
- 四、井水の良好なる地
- 五、隣人の醇厚なる地

○農舎の建築様式

- 一、經濟の點に注意すること
- 二、衛生上に注意すること
- 三、便利の如何を考察すること
- 四、利用の方法を考究すること
- 五、趣味の點に注意すること

○百金土地を買ひ五百金隣を買ふ。

○睦ましいぞや田舎の薬屋炊ぐ煙りも往き來する。

(三) 所有土地原簿

黃楊村字片裏五一二七番地

一 田三段歩

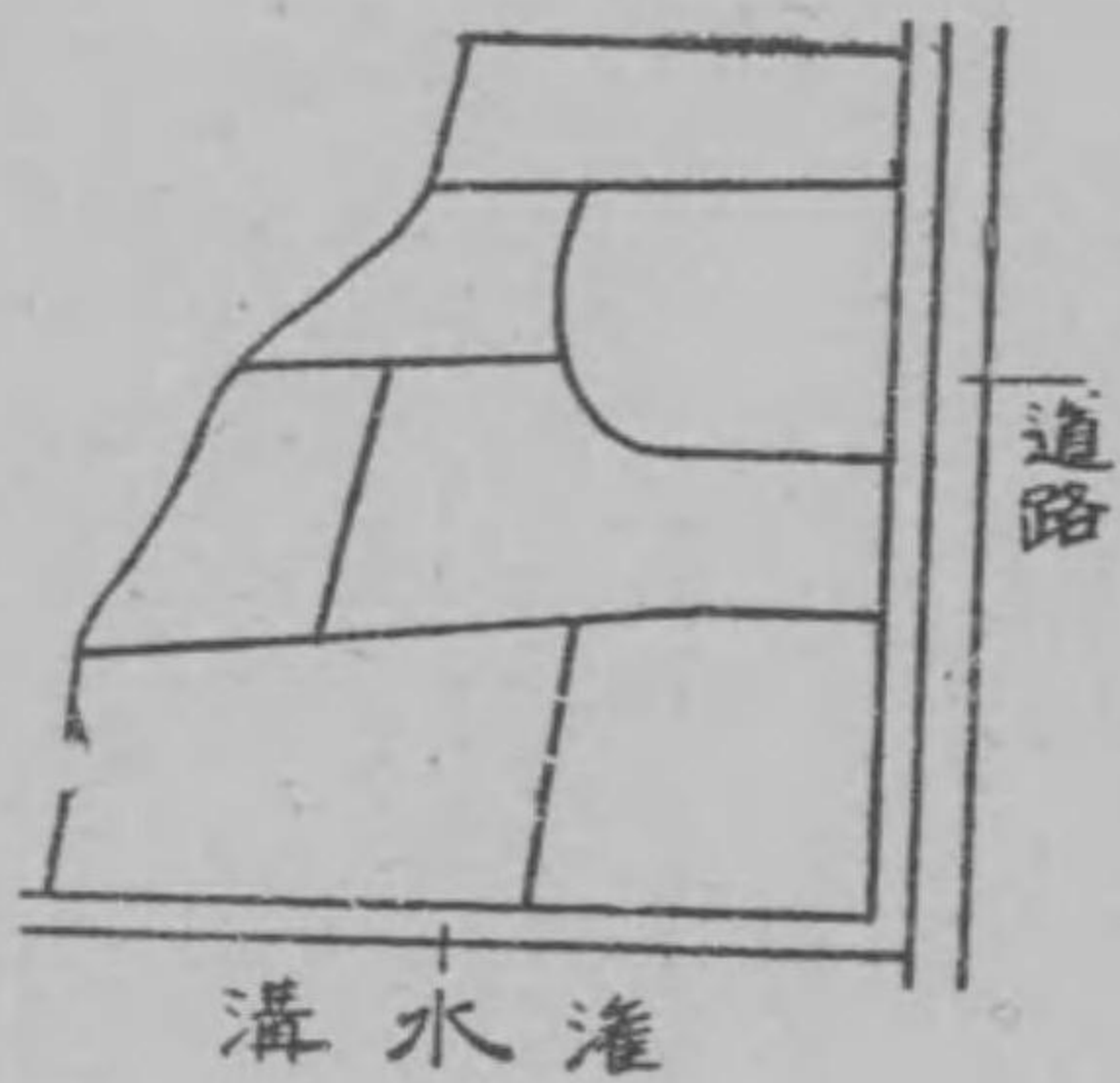
- 一、等級 二等田
- 一、地價金 百八十圓、反當六十圓の割
- 一、地租金 八圓十錢

一、前所有者 黃楊村字春日田中李兵衛

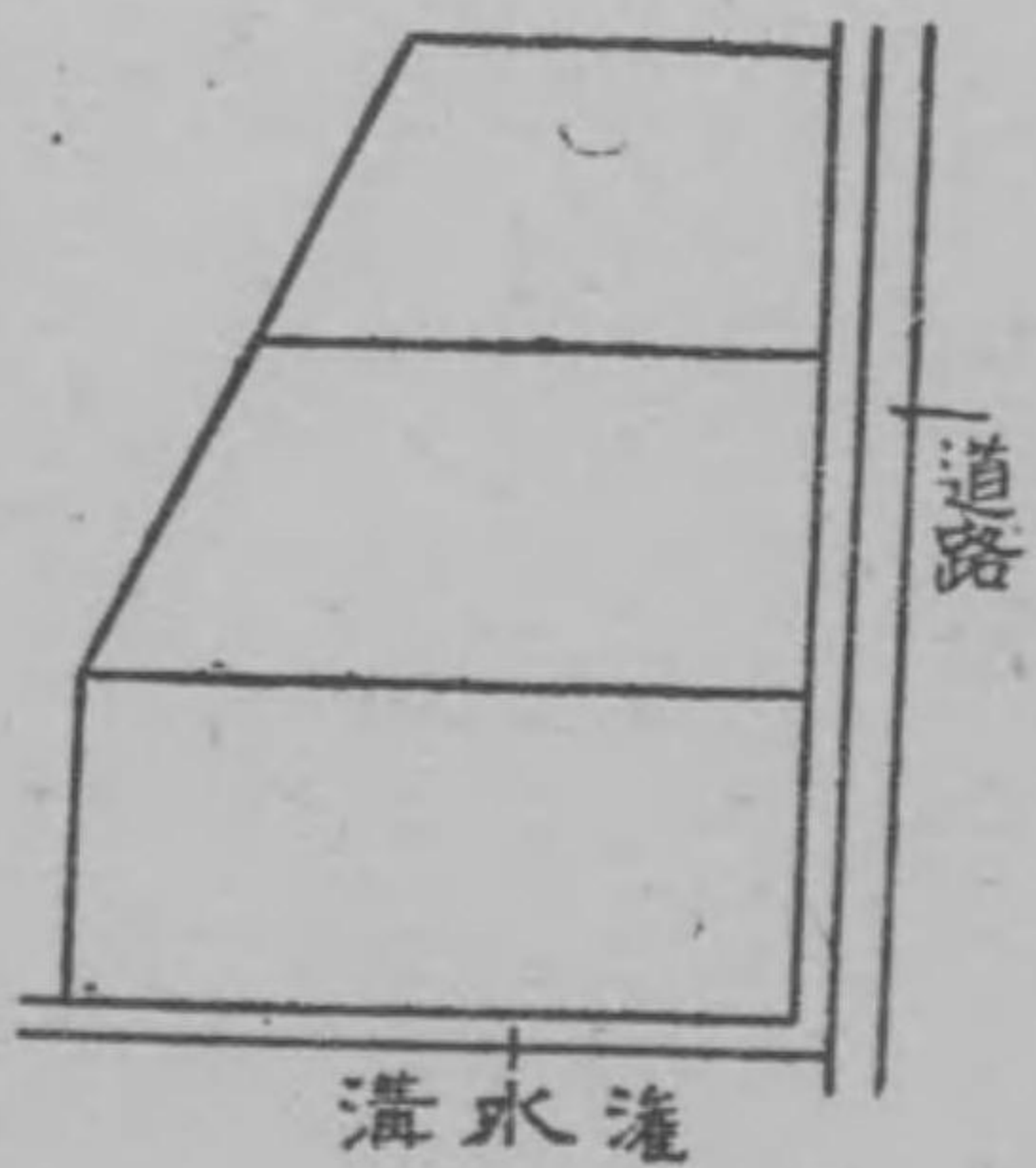
一、購入年月 明治二十三年二月金三百六十圓にて買受

一、耕地整理 同三十五年耕地整理をなし二毛作田となる

整理前の地形



整理後の地形



- 一、收穫高 大正三年二石八斗、大正四年二石九斗五升、大正五年三石一斗、大正六年三石一斗五升、大正七年三石二斗

注意 一、土地は農家經營上最も緊要なるものなればこの原簿を作製して所有土地一筆毎に圖示し

其土地に係る一切の事項を掲載し置くべし。

一、本例は單純なる一例に過ぎず之より工夫考按して詳細に記述し趣味ある農場沿革史たらしむべし。

- 土は米なり土は金なり。
- 土化して米となり米化して人となる。
- 土地は農家の金坑なり。
- 土地の所有者は土地の改良者なり。
- 土地肥すには牛肥せ。

(乙) 家計部

第一節 主要帳簿の種類

一、金錢出納簿

家計に關する金錢出納を日々記載する帳簿なり。

二、物品受拂簿

生計に要する穀物其他の物品受拂を明瞭ならしめんが爲に設くるものなり。

三、支拂内譯帳

金錢支拂の内譯並に營業部より家計部に供給したる現物を明確にするの目的にて使用するものなり、其各科目に屬する豫算と支出の狀況を知り年度末に於ける決算表編製に便すべし。

四、年度末決算表

一年間に要したる家計費を詳かにせんが爲めに年度末に作製するものなり。

第二節 金錢出納簿

月日	摘要	科目	收入	支出	残高
一	前年度繰越高	收入	一八、四〇〇圓		一八、四〇〇圓
四	鹽物魚類代拂	費用		一〇、〇〇〇圓	一八、四〇〇圓

合理的農家經營法

二	五	子供學校用雜記帳代	修養費	二〇〇	一六、二〇〇
二〇	吳服屋拂綿物二反	被服費	七、五〇〇	八、七〇〇	
二五	斬髮二人分代	雜費	二〇〇	八、五〇〇	
二七	共同貯金月掛	義務費	三、〇〇〇	五、五〇〇	
二八	電燈料支拂	居住費	一、一〇〇	四、三〇〇	
三	五	奧澤修氏へ進物	交際費	五〇〇	三、八〇〇
一〇	事業部より受入	收入	五、〇〇〇	八、八〇〇	
一二	農夫生視察旅行費	修養費	二、〇〇〇	六、八〇〇	
一五	縣稅戶數制上納	義務費	五、二〇〇	一、五〇〇	
合計				一五八	

注意 一、本簿の記入法は事業部の金銭出納簿と全く同一なり。
 二、科目欄には豫算の科目を記入し支拂内譯帳へ轉記するの便に供す。
 三、欄外のレ印は支拂内譯帳へ轉記済の標識なり。

第三節 物品受拂簿

米	月日	摘要	受入	支拂	残額
二	一	前年度繰越高	石 三〇〇		石 三〇〇
一〇	一	事業部より受入	六〇〇		九〇〇
二八	二	二月分食料 (二月分合計)	九〇〇	八四〇	六〇〇
三	一	事業部より受入	一、一〇〇		一、二六〇
一五	三	三月分前分食料		五〇〇	七六〇

注意 一、本簿は營業部と家計部との間に於ける現物の受渡を明記するものにして米、麥、雜穀、野菜、果物、等に分別し、各其受渡高及現在高を明細ならしむべし。
 二、日々の定まりたる消費高の如きは其都度記入するに及ばず時々一括して記入するを便とす、毎月末には受入及支拂の合計をなし残高を明瞭ならしむべし。

第四節 支拂内譯帳

年月日	摘要	收入	支出	残高
六年 二	一 豫算高	七三、〇〇〇		七三、〇〇〇
..	一 前年度繰越物品受入		一八、〇〇〇	七三、〇〇〇
..	二 白米三升、麥一升大豆五升 小豆三升、蜂蜜一、五百目 の評價額		一、〇〇〇	七三、〇〇〇
..	四 鹽物魚類代拂		二、〇〇〇	七三、〇〇〇
..	五 里芋十貫目、大根十貫目代		三、〇〇〇	七三、〇〇〇
..	一〇 米六斗、麥三斗代		二四、〇〇〇	七三、〇〇〇
..	二八 葱十貫、水菜十貫牛蒡三貫		三、四五〇	七三、〇〇〇

七年 一	摘要	收入	支出	残高
三	一〇 鶏肉一、兔肉一、卵三〇 (以下記載省略して一括)		二、九〇〇	六七三、六五〇
三〇	酒屋拂 (年度末豫算残高)		五九〇、五〇〇	八三、一五〇
			七六、〇〇〇	五、一五〇
	合 計	七三三、〇〇〇	七三三、〇〇〇	

注意

- 一、賄費とは日常の炊事に關する一切の費用也、即ち米、麥、雜穀、魚類、獸肉類、砂糖、食鹽、醬油、煙草、菓子、其他野菜、果物等日常生活に必須なる飲食物一切の費用也。
- 二、營業部より受入るべき蔬菜、果物鶏卵其他一々記載すること面倒なるものは覺帳又は日誌等に一時記入し置き月末に評價して記入するも可なり。
- 三、年度末に於て残高ある時は「年度末豫算残高」と摘要欄に朱記し其残高を支出欄に朱記すべし。

居住費

年月日	摘要	收入	支出	残高
六年二一	豫算高	八〇,〇〇〇	圓	八〇,〇〇〇
..	割木二〇束 薪三〇束		四,一〇〇	七五,九〇〇
..	本月分電燈料		一,一〇〇	七四,八〇〇
..	(以下省略一括)		七,一〇〇	三,五〇〇
七年一三一	本月分電燈料 (年度末豫算残高)		一,二〇〇	二,三〇〇
合計		八〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	

注意 一、居住費とは家屋庭園の修繕費(若し借家なるときは家賃)家屋損料の割合、其他居住に關する一切の費用也、但し住宅と農舎と兼ぬる場合には家計部と營業部とに相當の率を以て費用を分擔せしむべし。

什器費

年月日	摘要	收入	支出	残高
六年二一	豫算高	二五,〇〇〇	圓	二五,〇〇〇
三	椅子二脚		六,〇〇〇	一九,〇〇〇
五	蠅取器械一個		四,〇〇〇	一五,〇〇〇
	(以下省略一括)		一四,〇〇〇	一,〇〇〇
七年一三一	新聞挾一個購入 (年度末豫算残高)		五〇〇	五〇〇
合計		二五,〇〇〇	二五,〇〇〇	

注意 一、什器費とは庖厨用器具類より戸棚、箆筒、机、時計等より床置、掛物、骨董品に至る一切の器具類に要する費用也

費服被		年月日	摘要	收入	支出	残高
六年二	一	一〇	豫算高	170,000		170,000
	三	一	吳服屋拂綿物三反代 蝙蝠傘一本代 (以下省略一括)		7,500	
七年一	三二		足袋三足代 (年度末豫算残高)	1,350	151,150	151,150
合計				170,000	170,000	

注意 一、被服費とは衣服、冠物、履物一切の費用及び其修繕費を總稱す。

費養修

費養修		年月日	摘要	收入	支出	残高
六年二	一		豫算高	110,000		110,000
	三	二	教育費 圖書費 旅行費 子供學用品代 本月分新聞雜誌代 農夫生視察旅行費 (以下省略一括)		70,000 24,000 36,000 1,000 1,000 11,000	
七年一	三一		安屋書店書籍掛拂 (年度末豫算残高なし)		10,000	100,000
合計				110,000	110,000	

注意 一、修養費とは子女教育の費用即ち圖書、筆紙墨、修學旅行等より其他新聞雜誌、視察娛樂旅行等に要する費用一切を含む。

費際交

年月日	摘要	收入	支出	残高
六年二一	豫算高	六〇,〇〇〇		六〇,〇〇〇
三	奥澤修氏に進物		五〇〇	五九,五〇〇
二〇	氏神玉垣修繕寄附 (以下省略一括)		四三,〇〇〇	一五,五〇〇
七年一	新年宴會費		一,〇〇〇	一四,五〇〇
三一	(年度末豫算残高)		五,〇〇〇	九,五〇〇
合計		六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	

注意 一、交際費には親戚、友人、知人等の交際に要する一切の費用即ち歳暮中元の贈物、出産、婚禮等の慶賀の進物疾病見舞、梅吊、祭禮の供物歓迎送別其他宴會費來客等に要せし費用也。

費務義

年月日	摘要	收入	支出	残高
六年二一	豫算高	三三,〇〇〇		三三,〇〇〇
三	共同貯金二月分		三,〇〇〇	三〇,〇〇〇
一五	縣村稅戶數割上納 (以下省略一括)		一〇一,一〇〇	一九,九〇〇
七年一	生命保險料拂込 (年度末豫算残高)		一〇,〇〇〇	九,九〇〇
三一			一,一〇〇	八,八〇〇
合計		三三,〇〇〇	一一二,一〇〇	

注意 一、義務費とは地租其他公課諸掛より公共事業寄附金、集會費、共同貯金、生命保險、借金の利子等に關する一切の費用をいふ。

臨時費		年月日	摘要	收入	支出	残高
六年二	三	一	豫算高	八〇,〇〇〇	圓	八〇,〇〇〇
	五		三男出産祝費用 (以下省略一括)		三三,〇〇〇	四五,〇〇〇
七年一	三二		醫師藥代及謝禮 (年度末豫算残高)		三三,〇〇〇	一,〇〇〇
合計				八〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	

注意 一、臨時費とは醫藥、冠婚葬祭等不時の費用より天災地變によりて生ずる一切の費用の如き
圖られざる臨時の諸入費之に屬す。

雜費		年月日	摘要	收入	支出	残高
六年二	一		豫算高	一八,〇〇〇	圓	一八,〇〇〇

七年一	摘要	收入	支出	残高
三	履物一〇〇足代		二,〇〇〇	一六,〇〇〇
二	理髮二人分拂		二,〇〇〇	一五,八〇〇
四	齒磨粉及楊子 (以下省略一括)		二,五〇〇	一五,五五〇
三〇	燐寸塵紙其他 (年度末豫算不足高)	三,四九五	七九五	三,四九五
合計		一八,三四五	一八,三四五	

注意 一、雜費とは種々の小口の支拂に充てたる諸入費をいふ、即ち石鹼、塵紙、郵料、運賃、理髮、入浴其他家人小遣等他の諸科目に入れ難き諸費用之に屬す。